

2020 年度 空間デザイン実習Ⅳ

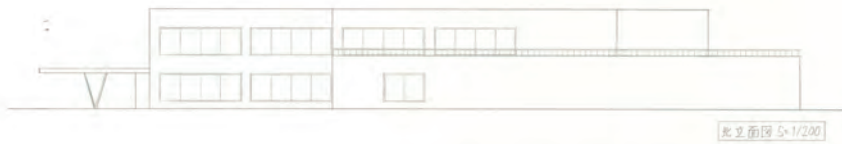
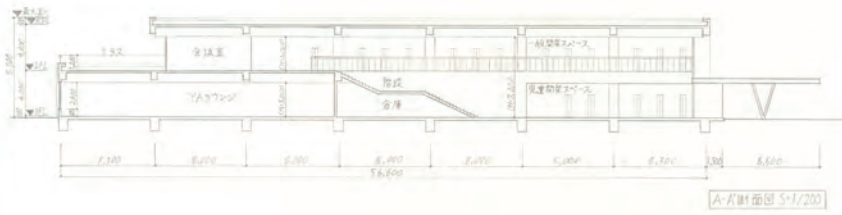
第 2 課題「地域図書館の設計」学生作品集

指導教員：小菅瑠香，北澤嘉浩，茶之木宏次

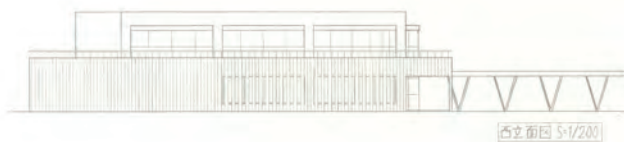
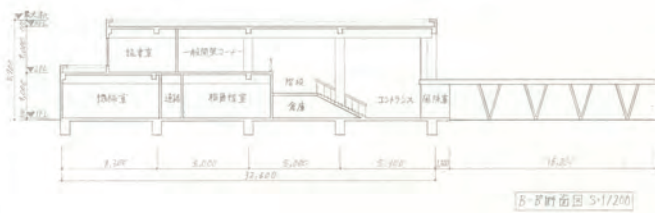
The floor plan illustrates the layout of the 1st floor, featuring a central corridor system connecting various functional areas. Key rooms include a large meeting space (会議室) on the left, a reception area (ロビー) and entrance (エントランス) on the right, and a central lounge (中庭) with a curved staircase. Outdoor spaces are integrated throughout, including a large lawn area at the bottom and a courtyard on the right. The plan is annotated with numerous dimensions in millimeters and meters, as well as labels for specific rooms and features like elevators (エレベーター) and stairs (階段). A north arrow is located in the bottom right corner.

1階平面図(東配建図) S-1/200





Media Square



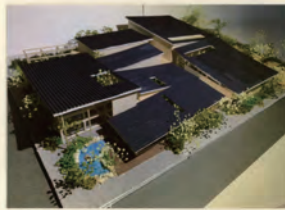
Media Square





NO IMAGE

遭逢ノ小道



西側パナリス

鳥籠の目で出会う"ほっけん"遊

熱地の暑さを和らげるために、鳥籠の目状の格子に、人々の憩い場が広がる。人々の憩いの場は、歴史的な建物を活用し、茶室、書斎、美術館、個性豊かな、お洒落な空間が、人々を魅了する。新しい発見と出会いが、ここから生まれる。人々の憩いの場は、鳥籠の目状の格子に、人々の憩い場が広がる。人々の憩いの場は、歴史的な建物を活用し、茶室、書斎、美術館、個性豊かな、お洒落な空間が、人々を魅了する。新しい発見と出会いが、ここから生まれる。



西側パナリス



つづみは、ほっけん遊の目状



東側パナリス

モザイク状に散りばめられた発見

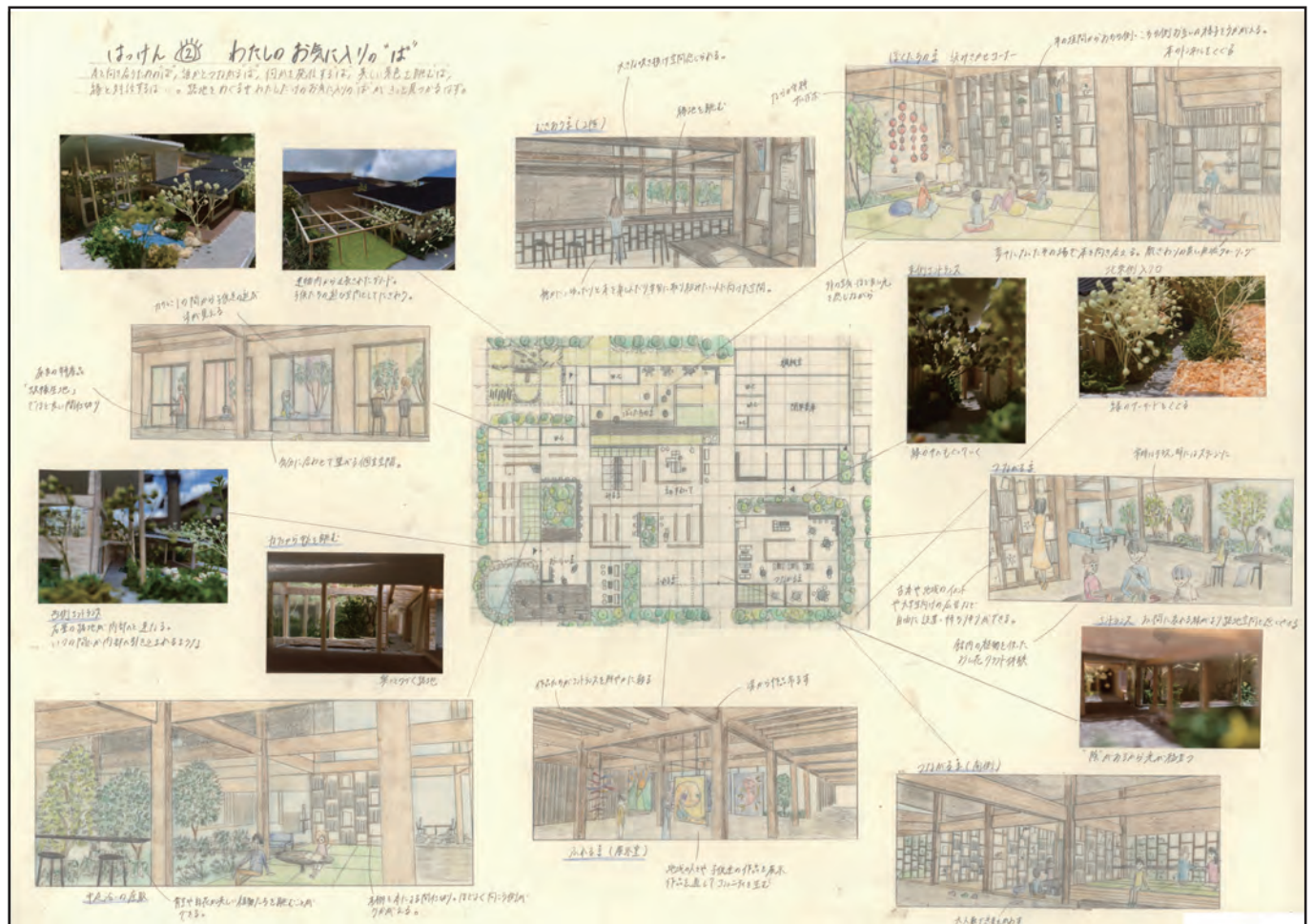
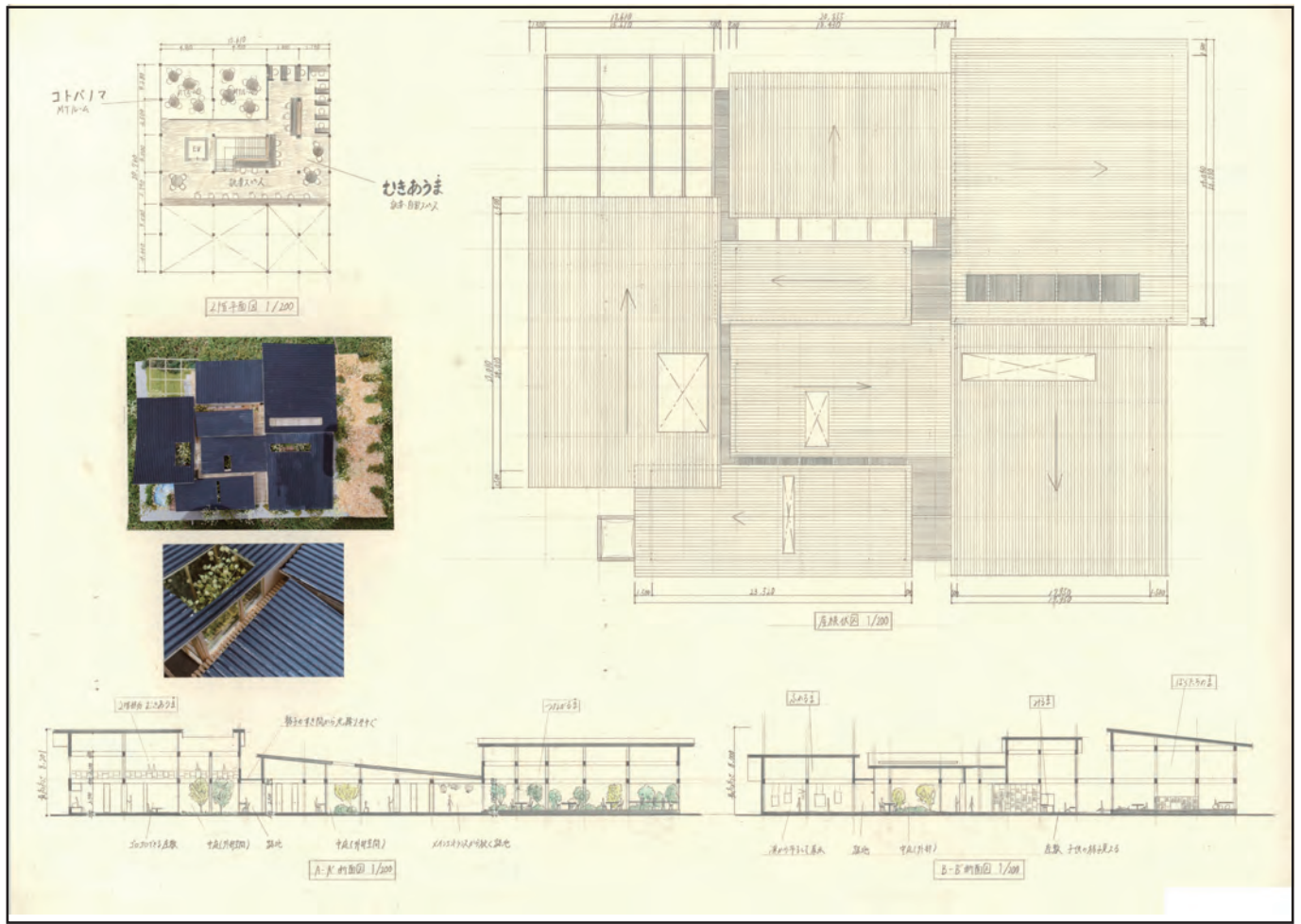
サイン計画

サイン計画は、発見の目状の格子に、人々の憩い場が広がる。人々の憩いの場は、歴史的な建物を活用し、茶室、書斎、美術館、個性豊かな、お洒落な空間が、人々を魅了する。新しい発見と出会いが、ここから生まれる。

全館長	4,400㎡
敷地面積	4,400㎡
延床面積	4,400㎡
2F延床面積	4,400㎡
3F延床面積	4,400㎡

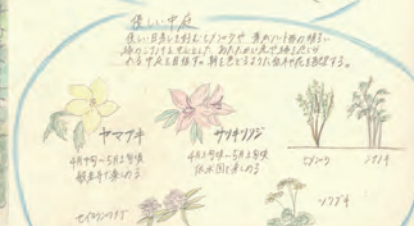
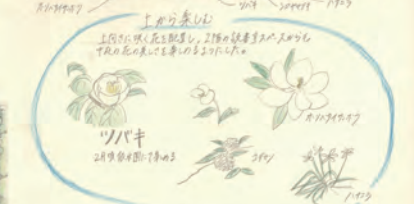
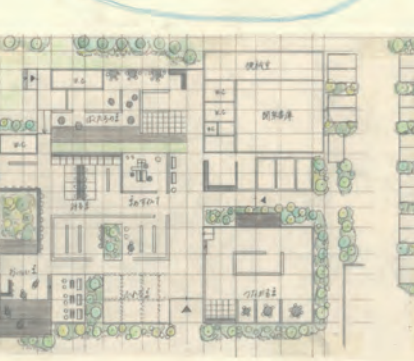
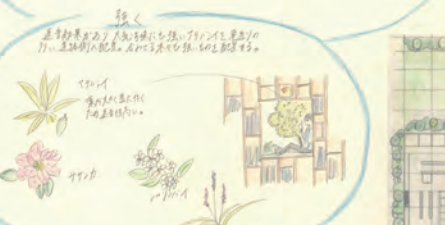
1F	茶室、書斎、美術館、個性豊かな、お洒落な空間が、人々を魅了する。新しい発見と出会いが、ここから生まれる。
2F	茶室、書斎、美術館、個性豊かな、お洒落な空間が、人々を魅了する。新しい発見と出会いが、ここから生まれる。
3F	茶室、書斎、美術館、個性豊かな、お洒落な空間が、人々を魅了する。新しい発見と出会いが、ここから生まれる。





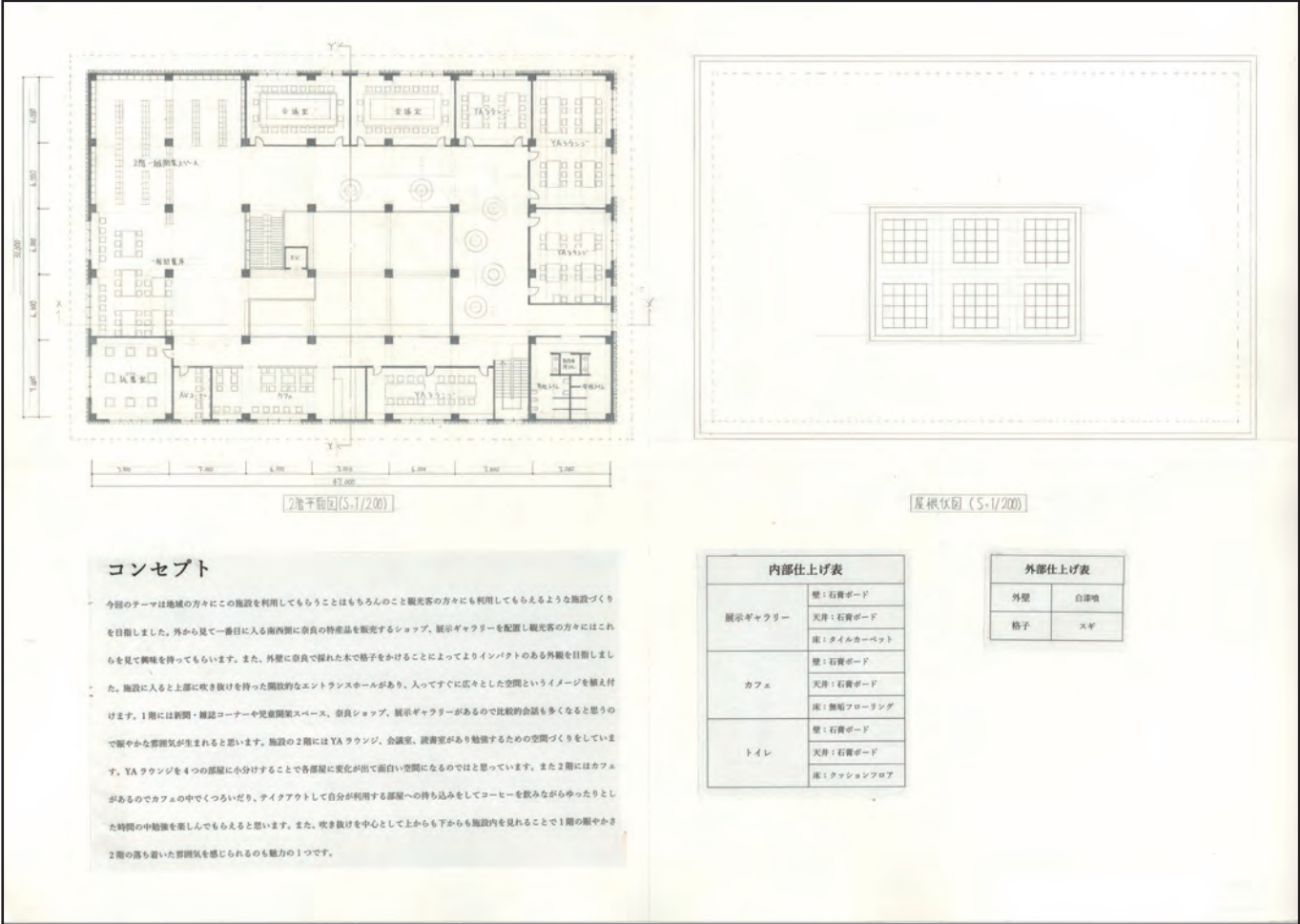
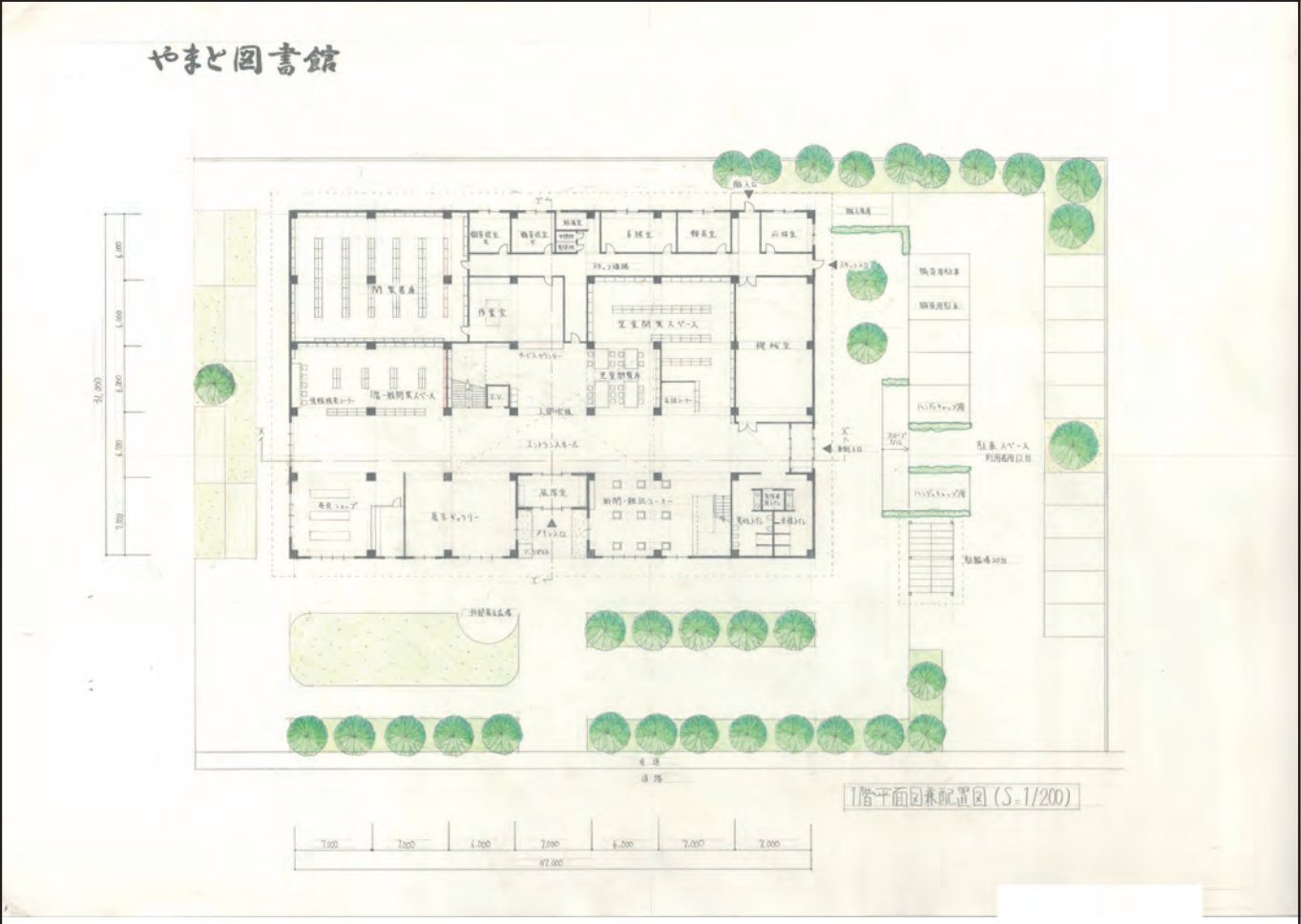
ほけん 奈良の花暦

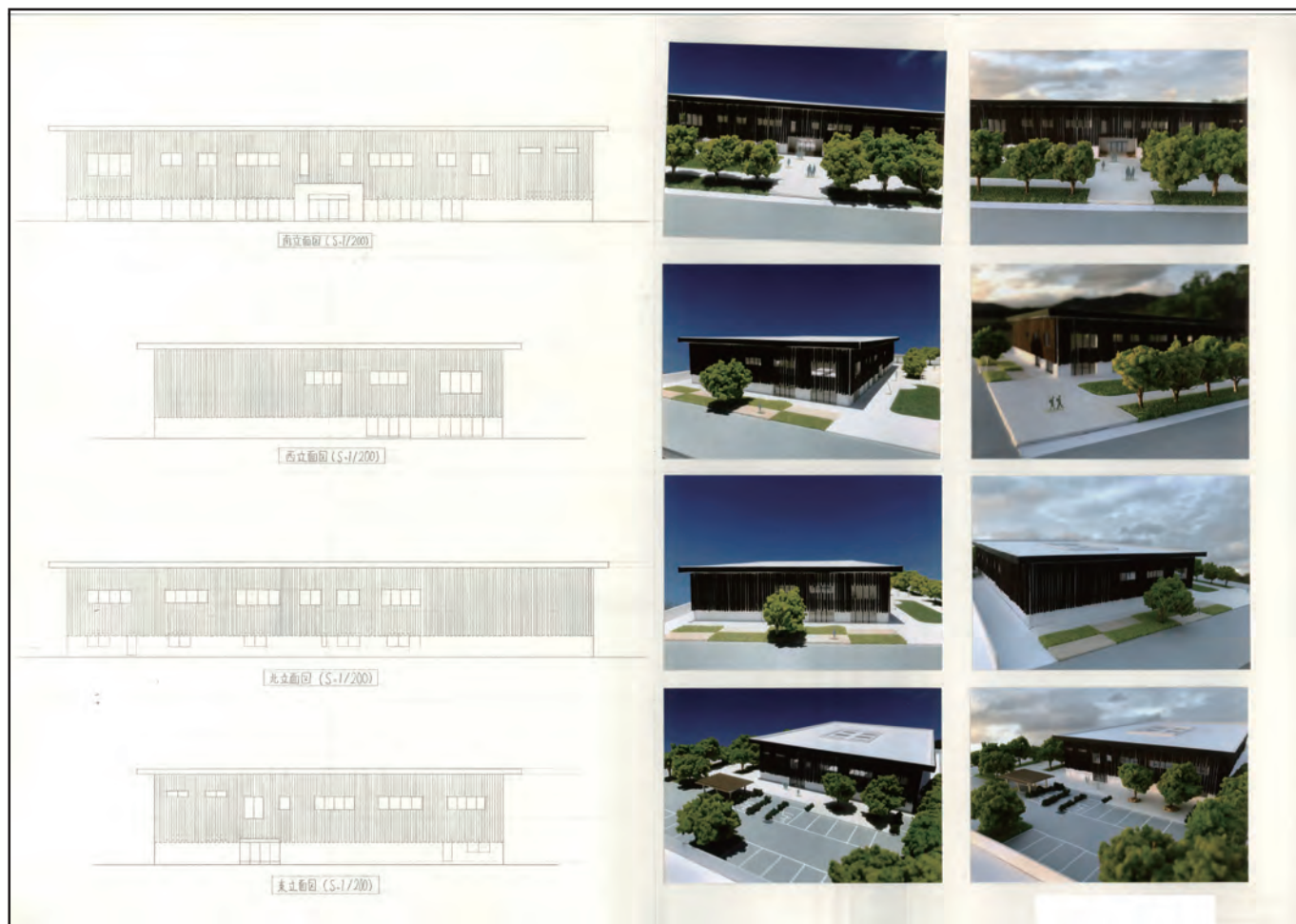
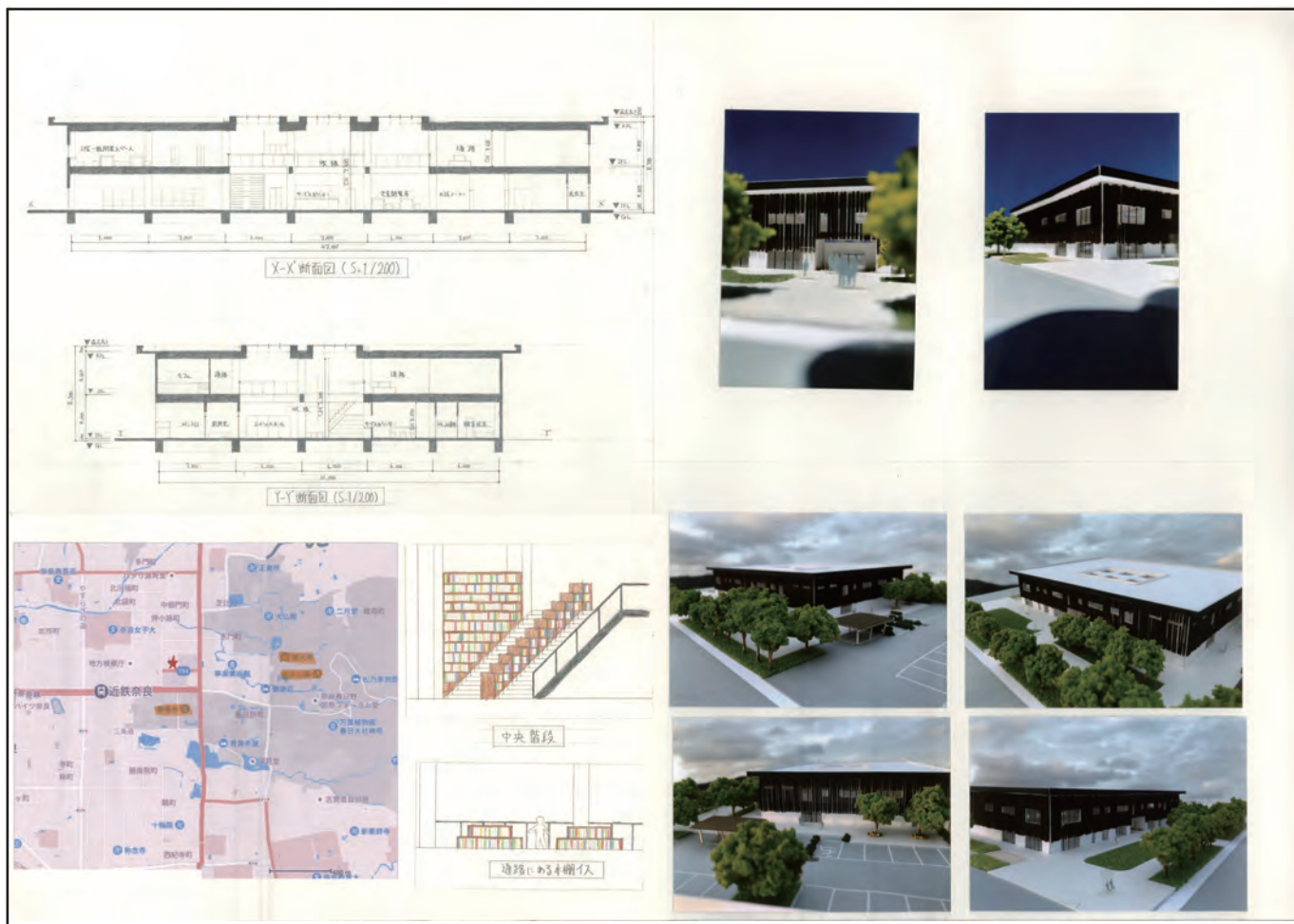
春の訪れと共に奈良の花暦が始まります。奈良の花暦は、奈良県内に自生する花の生育状況を把握し、その変化を伝えるためのものです。奈良県内には、多くの花が自生しており、その生育状況は、気候や土壌の影響を受け、年々変化しています。奈良県内には、多くの花が自生しており、その生育状況は、気候や土壌の影響を受け、年々変化しています。





第2課題 上地 輝月さんの作品







NO IMAGE

交流 interchange-exchange

コンセプト

近年、若者の「活字離れ」や「読書離れ」が問題視されている。しかしそれは、若者に対して言われていることが多いが、全世代でその傾向が見られるのだ。また、活字を書くという行為も最近のインターネットの普及で失われている行為の一つかもしれない。

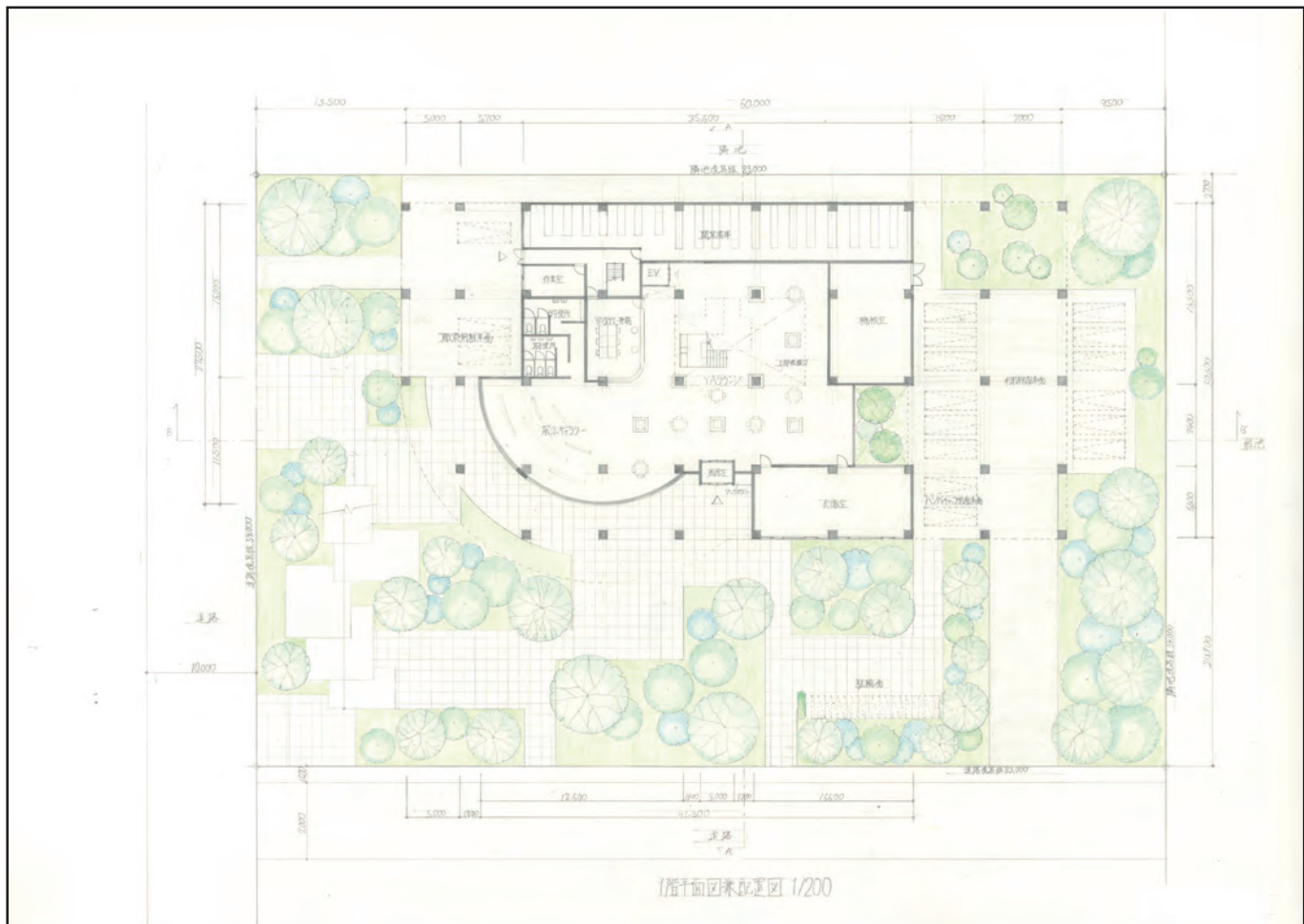
そこで、本設計で本を読む楽しさを広げることができるのではないかと考えた。1期にYAラウンジを配置することで、そこで生まれるコミュニケーションを図書館に行き人だけでなく、企画してや展示を見る来館人も見ることもできるようにした。そして、図書館でも本についてのコミュニケーションを生むため、カフェのスペースを一般読書の読書スペースと離れさせることで、図書室という空間でありながら、カフェでは本を読みながら話さずことができる空間を造った。それぞれの空間の仕切りを造るために、吹き抜けや中庭を四角く設け、それを外構やYAラウンジの本棚にも形のイメージを使った。コミュニケーションを生み出しながら本好きを増やすことを目的として設計した。

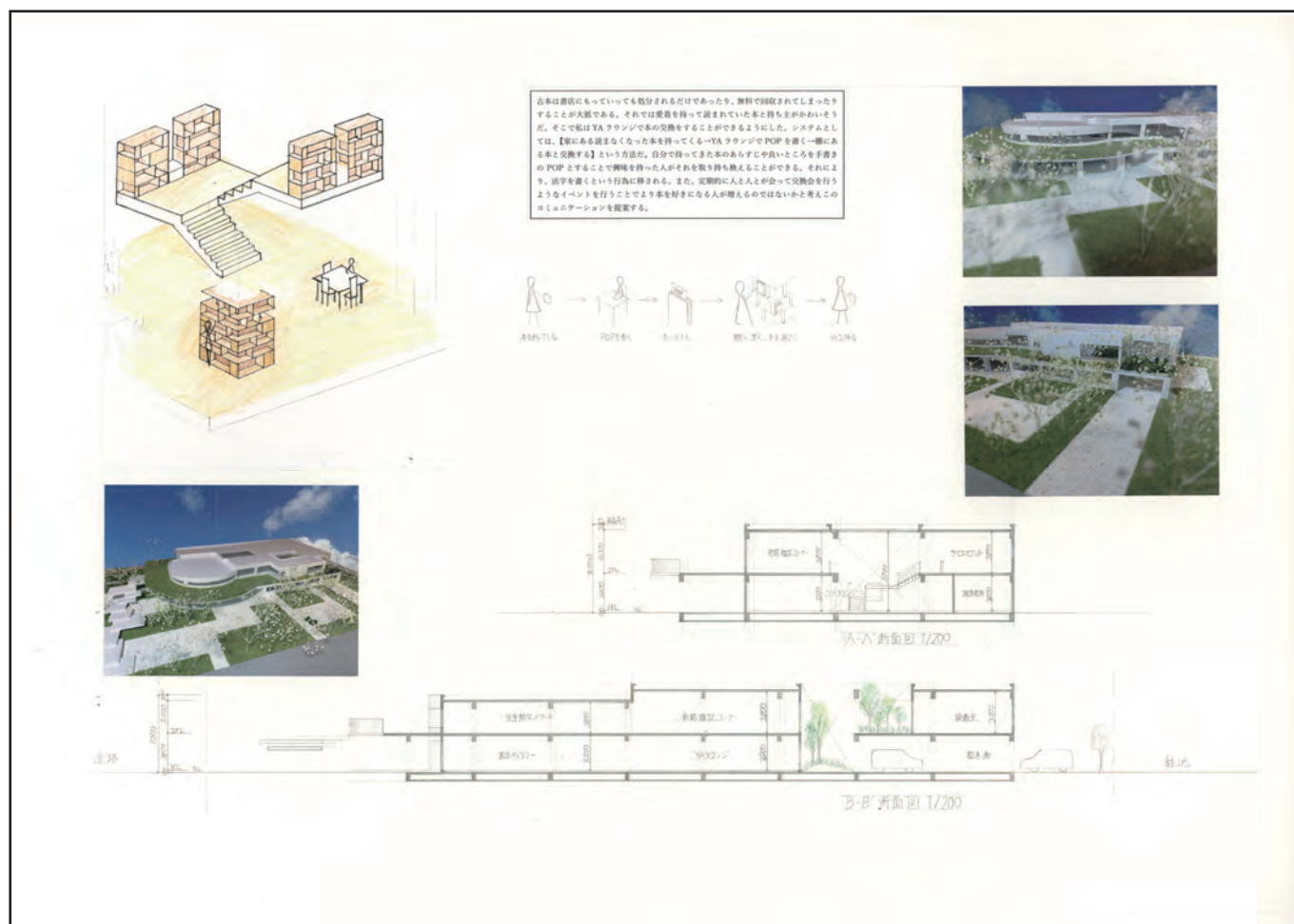
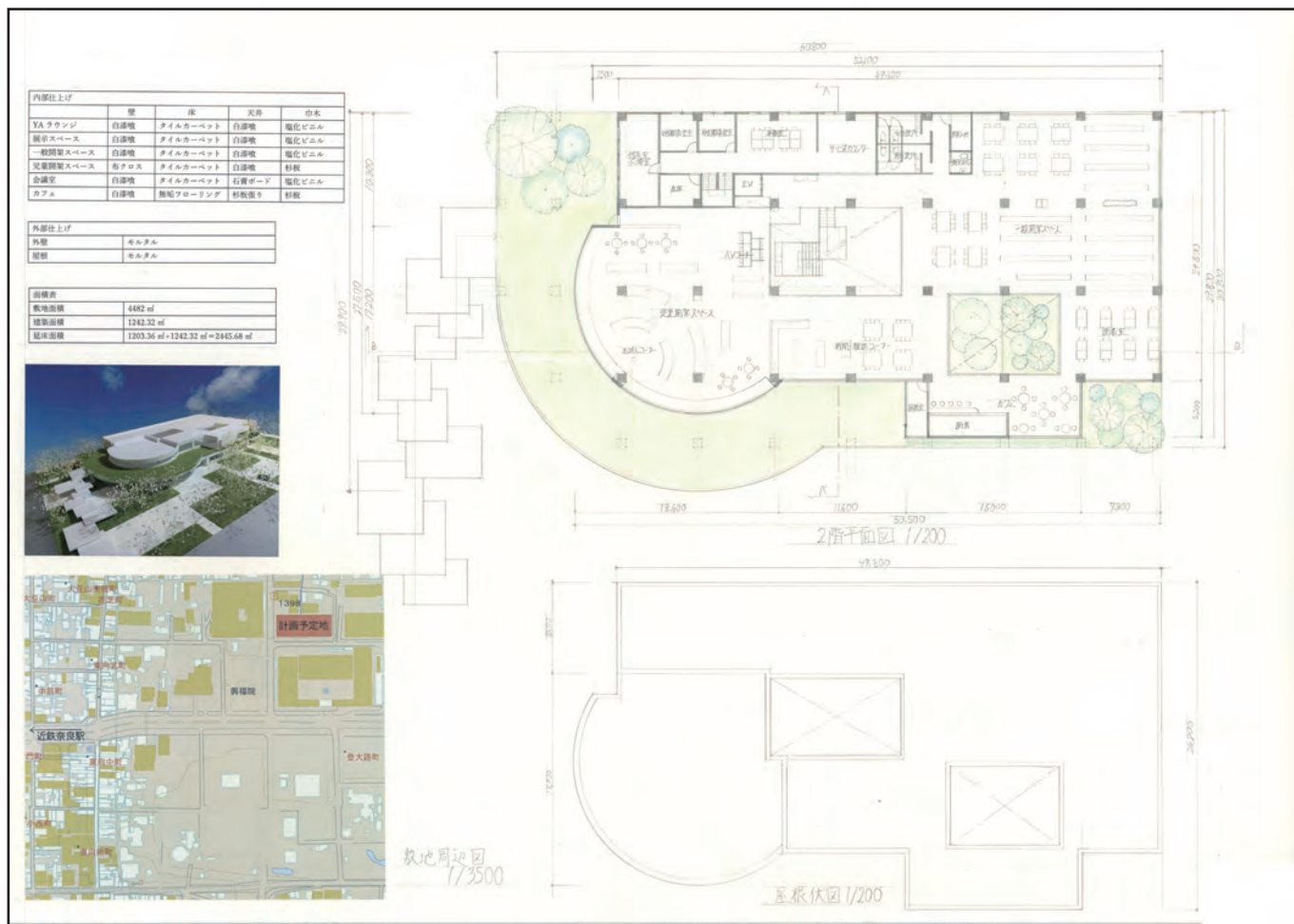
タイツラム

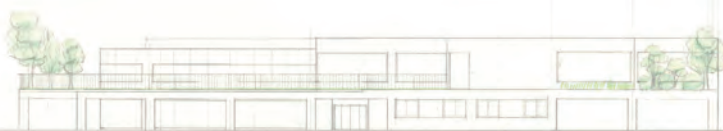
静と動の空間を対比

吹き抜けと天井に、暖かみのある照明を配する

読書と内装の色調、暖かみのある照明を配する







南立面图 1/200



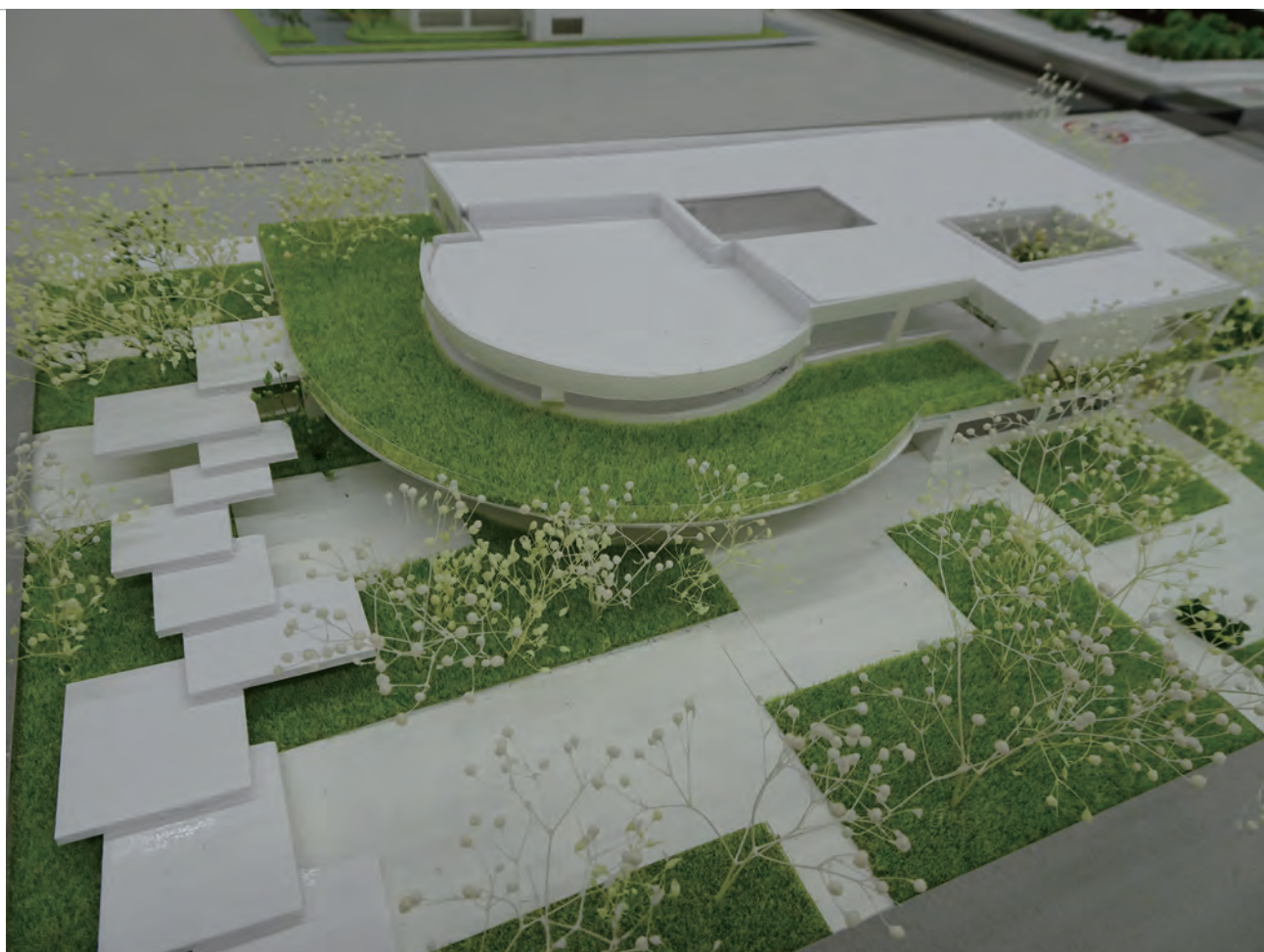
东立面图 1/200



北立面图 1/200

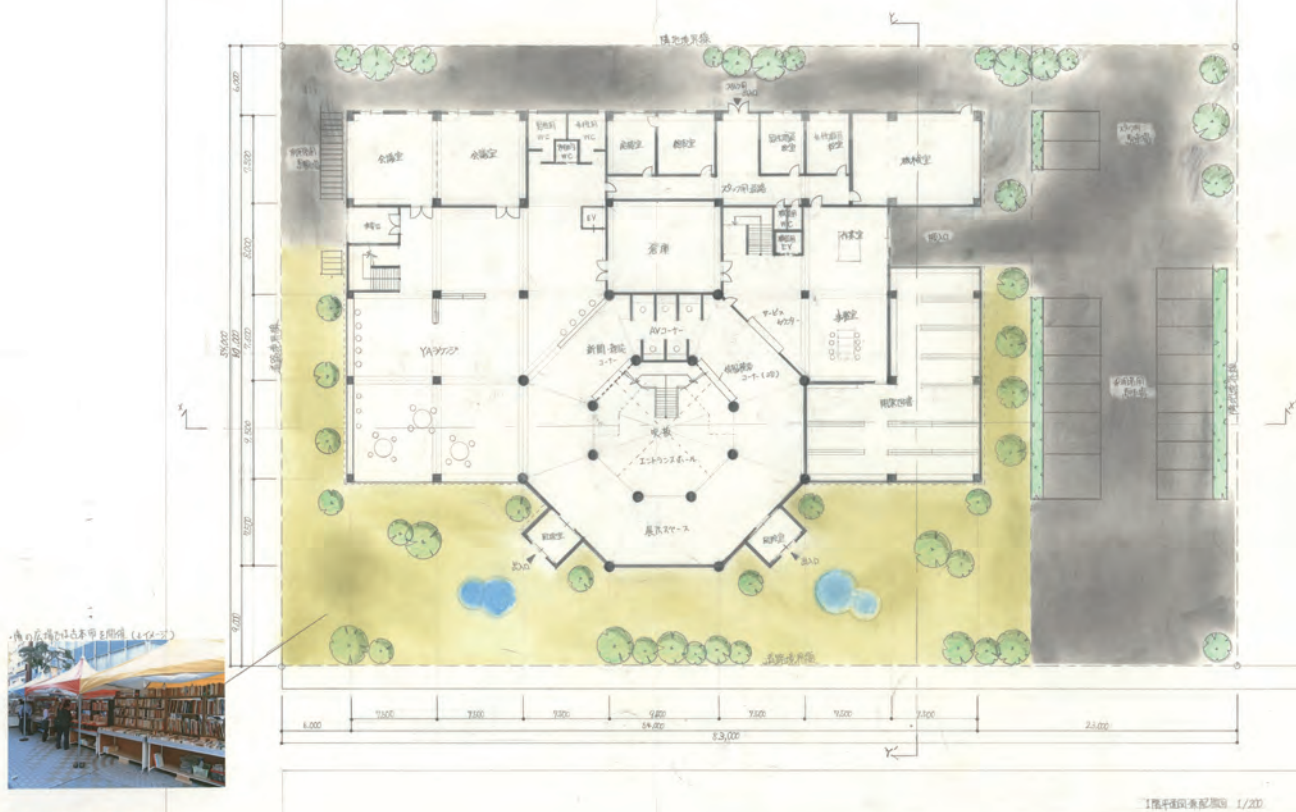


西立面图 1/200

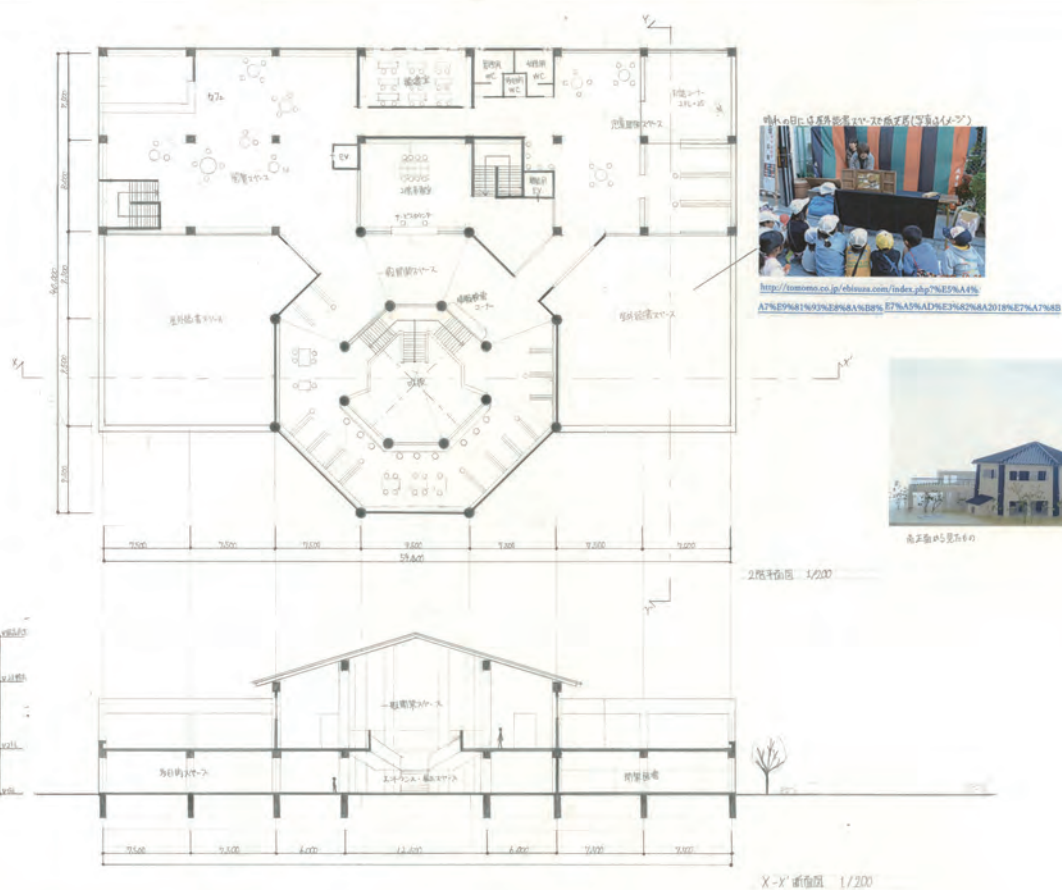


第2課題 大園 裕子さんの作品

奈良の図書館



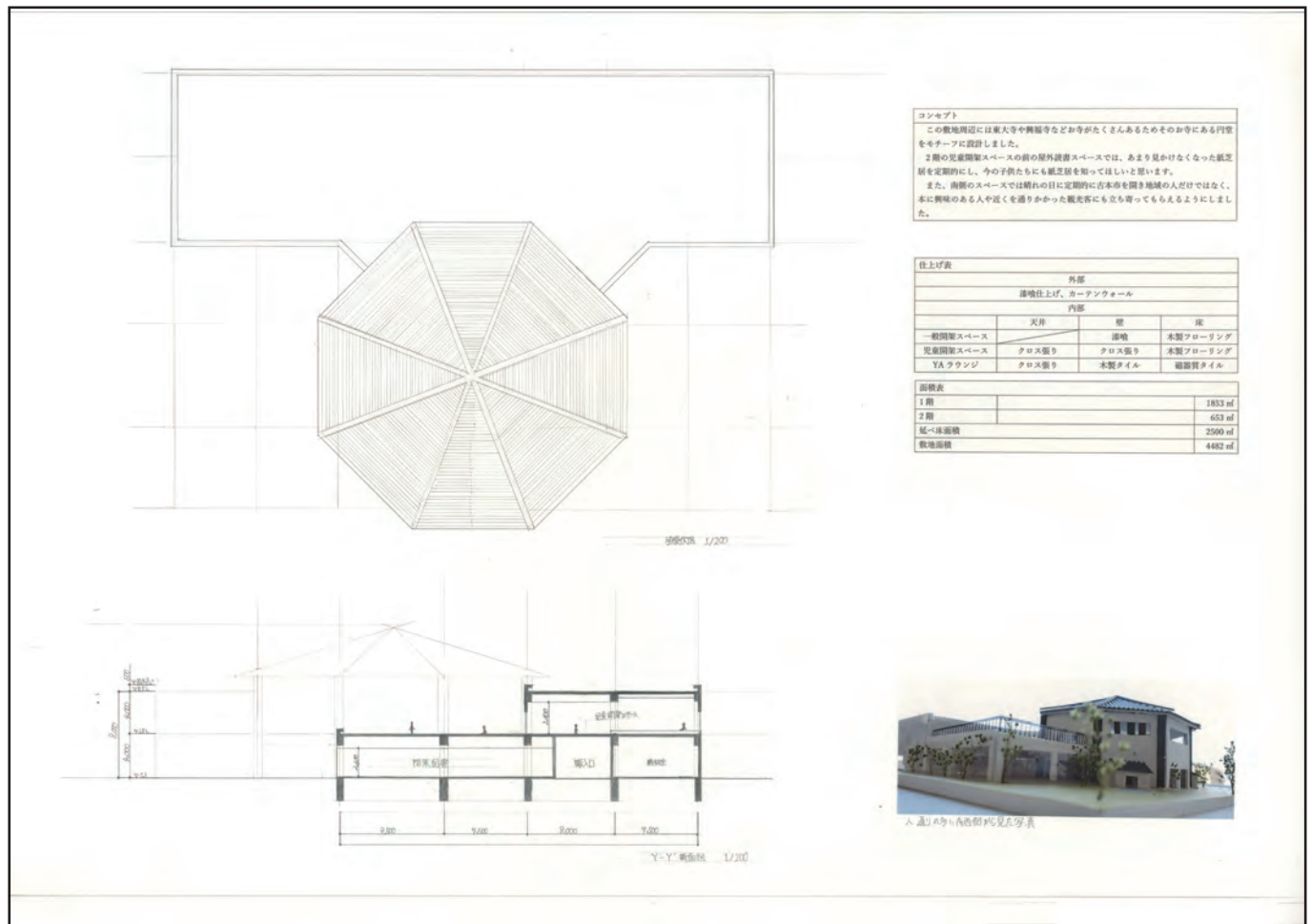
<https://hachioji.kansai.biz/headline/1114/>



<http://comomo.co.jp/eblissu.com/index.php?%E5%A4%A7%E9%81%A2%E2%80%82%E7%A9%A7%E3%A2%A2018%E7%A7%B8>



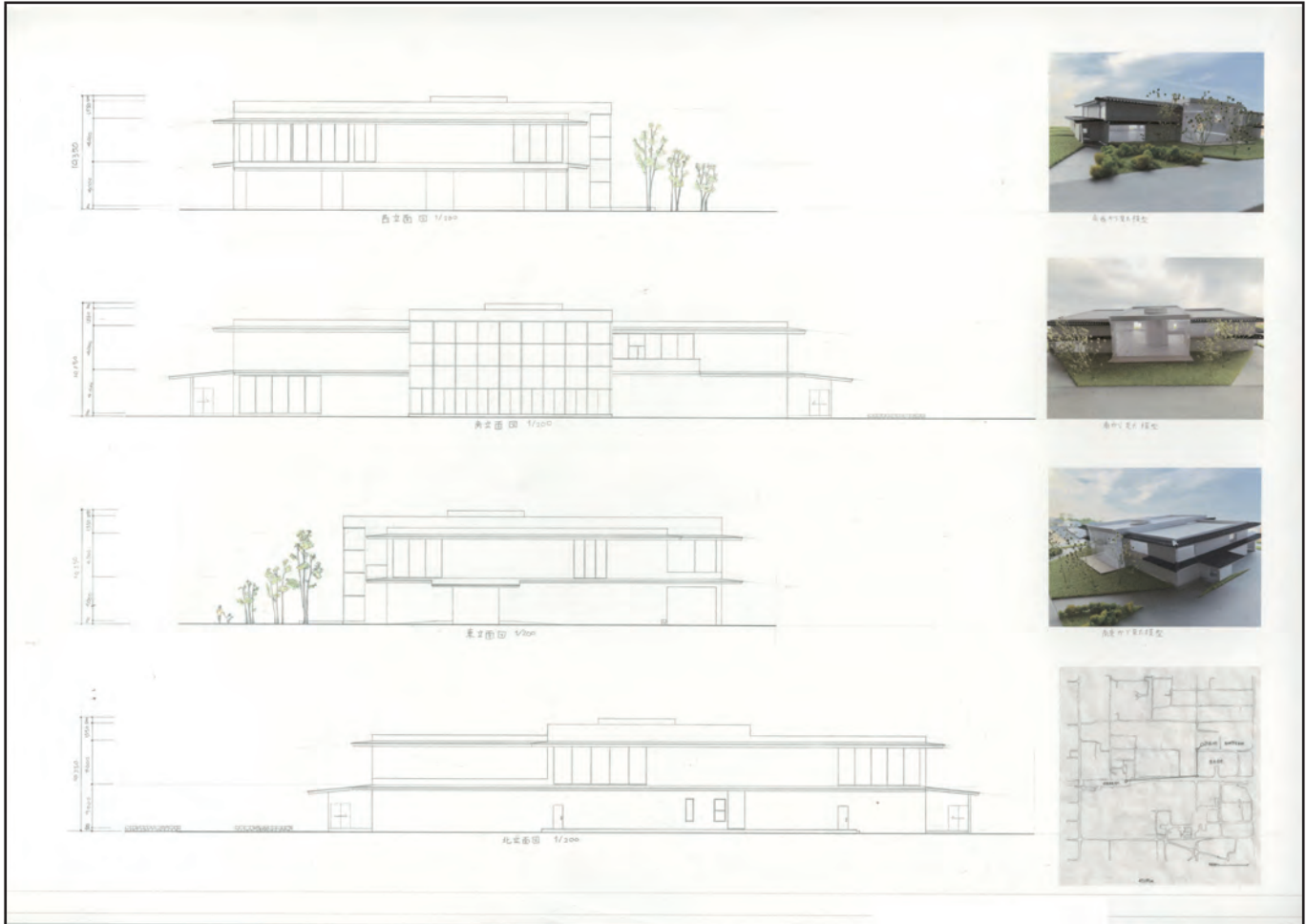
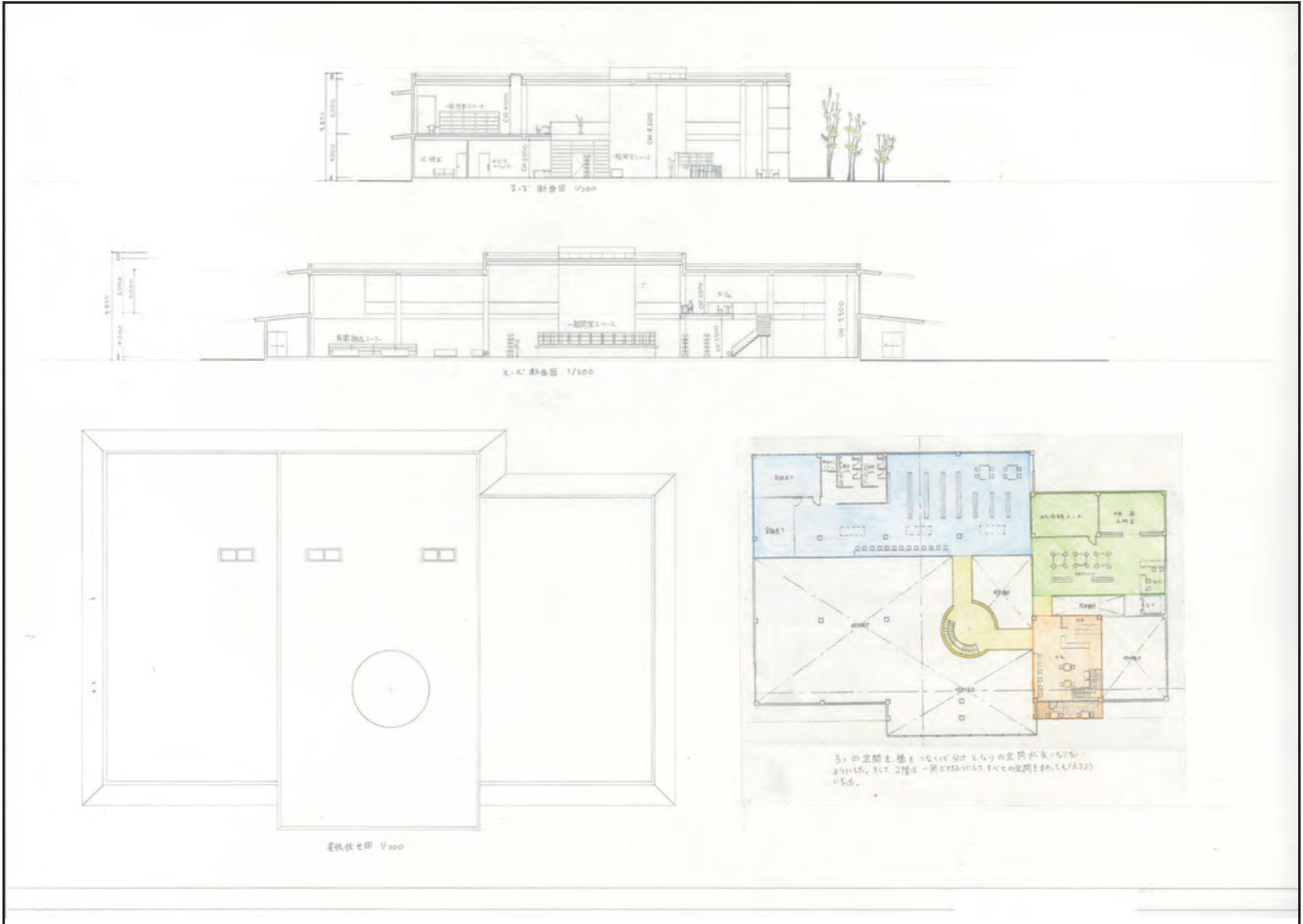
奈良から見たもの





NO IMAGE







NO IMAGE

結び

現代の社会は紙の文化が薄れ、
欲しい資料がオンラインで手に入る時代に
なった。

今、図書館の必要性はあるのだろうか。

本が紙として形で存在することで、人と本、
人と人、人と建物を結ぶことができる。

No.1 インテリアとして見ていた本に興味を持った時

人と本は結ばれる



本の貸し出しや本の紹介をする時、される時

人と人は結ばれる

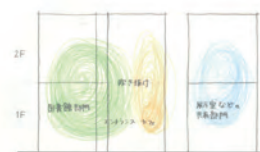
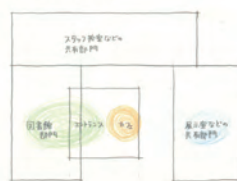


「また訪れたい」「他にも行ってみたい」と思った時

人と建物は結ばれる



ダイアグラム

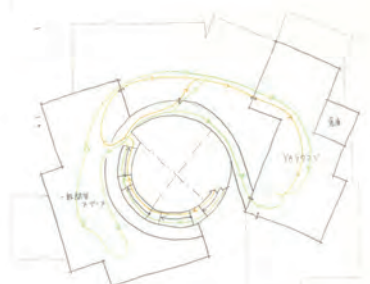
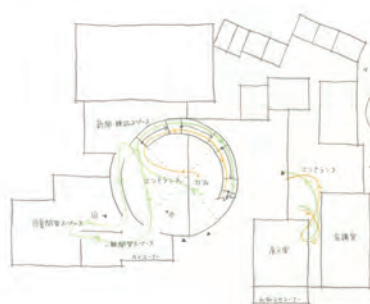


カフェに来た人が「ついでに」と思っ図書館や
展示室を訪れてもらえるように、カフェを他の部
屋で囲み、カフェとエントランスが移るように
配置した。

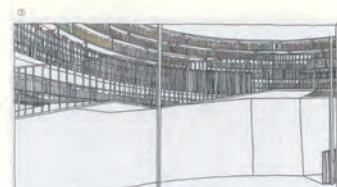
カフェにいるときは常に2Fの本をインテリアとし
て見てもらい、図書館を訪れた人には入ってすぐ
にソファをもらえるように、カフェとエント
ランスのある部分を吹き抜けとした。



人の流れ



① カフェでインテリアとして本を見る → 図書館エントランスに行く
スロープを上がる → ゆっくり本を読む → 外に出る → YAラウンジに行く
1Fを下りる → 展示室に行く
② カフェでインテリアとして本を見る → 図書館のエントランスに行く
③ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
④ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
⑤ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
⑥ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
⑦ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
⑧ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
⑨ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
⑩ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
⑪ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
⑫ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
⑬ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
⑭ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
⑮ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
⑯ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
⑰ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
⑱ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
⑲ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
⑳ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㉑ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㉒ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㉓ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㉔ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㉕ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㉖ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㉗ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㉘ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㉙ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㉚ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㉛ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㉜ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㉝ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㉞ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㉟ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㊱ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㊲ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㊳ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㊴ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㊵ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㊶ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㊷ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㊸ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㊹ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㊺ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㊻ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㊼ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㊽ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㊾ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む
㊿ 1Fの本を読む → スロープを上がる → ゆっくり本を読む



季節の流れ

春

机だけを置き、ガラスに
は桜を貼ることで本を読
みながら春を感じること
ができる。



夏

畳だけにして寝転がった
りできるようにすること
で暑い中の安らげる空間
にする。ガラスには風鈴
や七夕の絵を貼る。



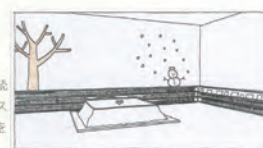
秋

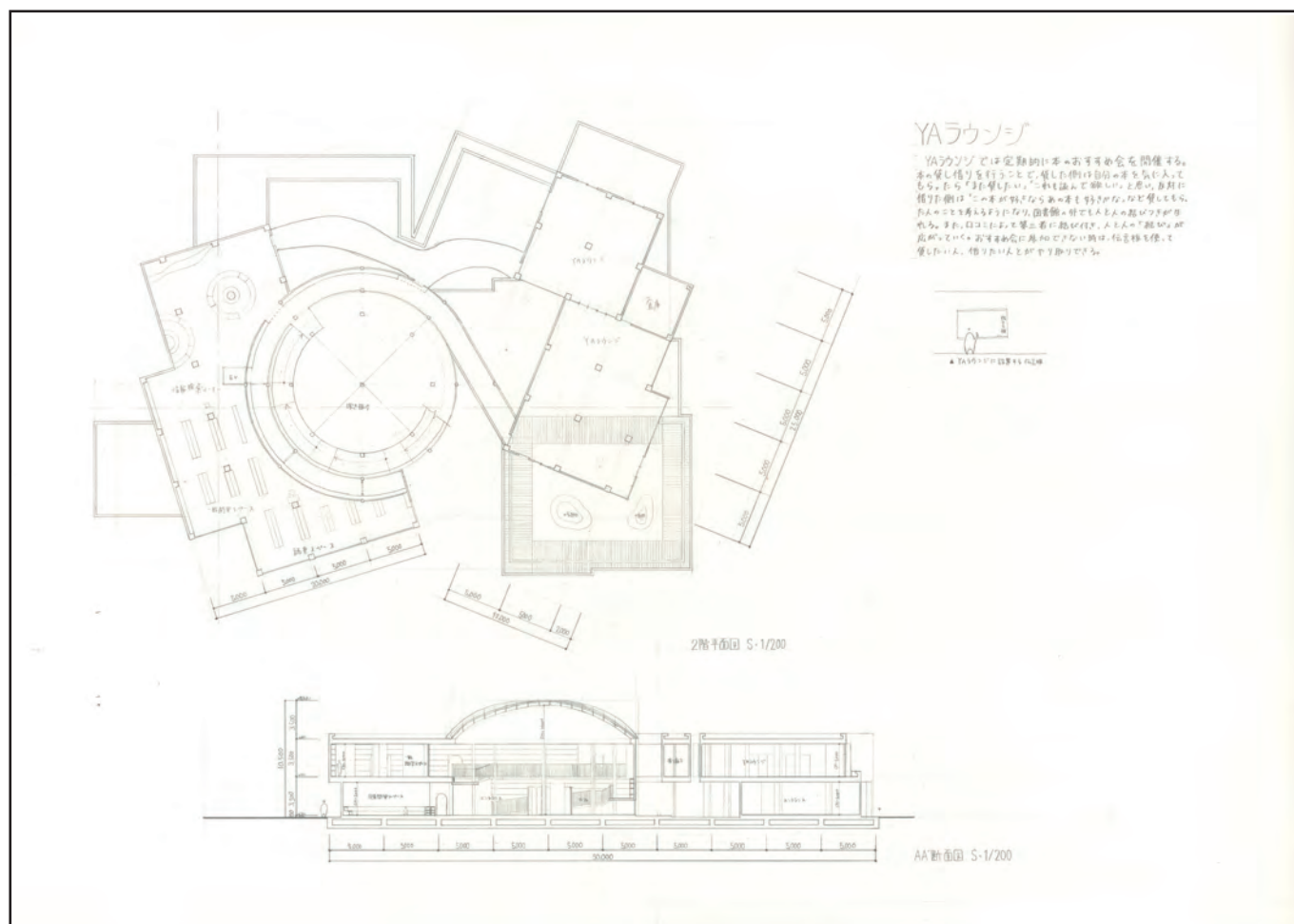
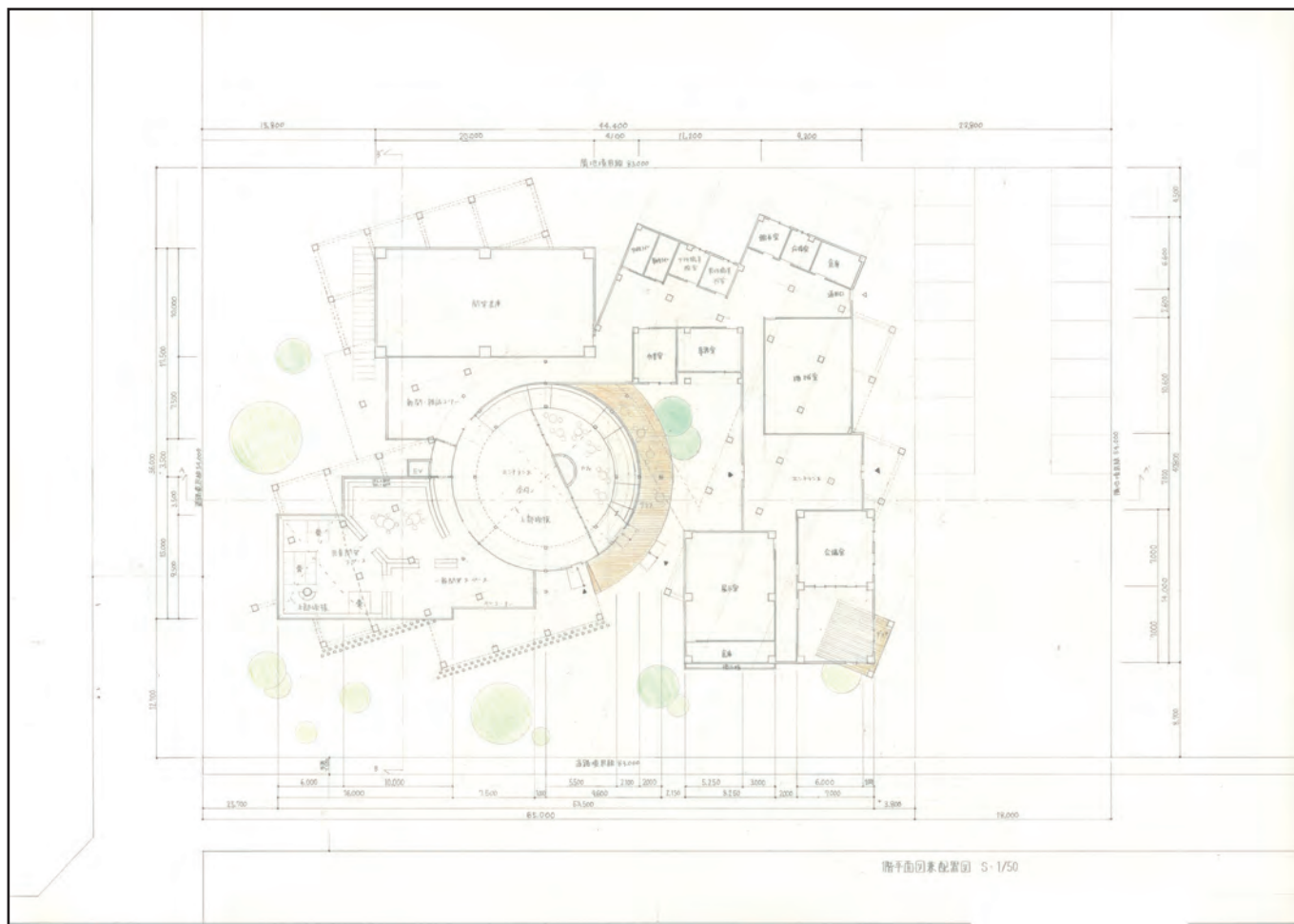
机を置き、ガラスには月
や団子の絵を貼ることで
お月見を知ってもらっ
て、季節に興味を持つて
もらう。



冬

畳の上にこたつを置き、
そこで団らんしたり、読
み聞かせをする。ガラス
には雪だるまなどの絵を
貼る。







NO IMAGE

第2課題 谷口佳乃子さんの作品（銀賞）

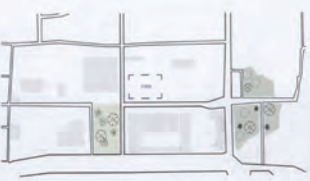
戸書館

～読む場として、自分の拠点を築く～



計画地

駅近くであり、一本道だった道は車の通りが多い。計画地は歩行者が多いイメージがもたらされた。周りに大規模な商業ビルなどがあり、運動などよく使われる道と見られる。また、隣に文化会館があることから、イベントのある館は一定の期待を寄せられつつも図書館に行く機会があると予想し、寛裕な雰囲気をつくりながら、入ってみたいというイメージを取り入れた。また、計画地周辺は緑地が多いが道沿いには歩道に整備された。そこで図書館前の緑地に目を付け、



コンセプト

現代の建築は、機能が衰えている建物に対して、その他の機能を付加させることで人を呼び込ませています。図書館もその一種だと考えられます。この方法は、来館人数は保たれるが、利用者が減っている空間が多くあります。付随機能が主となり、図書館が第二機能へと自然に変わっていくことが今の図書館の課題だと考え、設計しました。

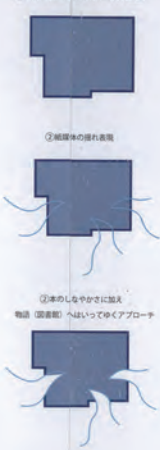
電子化の進行により、保存機能のみが残るような図書館に「学習」という機能を残そうと考えました。特定の書籍を現代では、自分の趣味や目標を多くの中から見つけることができます。子供のころのように、個人にあった趣味などは家々知りたり、大人になっても学ぶ場の中にならなくていいと思います。学びは、未来の自分の可能性に繋がる大きな財産があるものです。外・内・大勢・少数・大人・子供など、様々な場面に対応できる学びの場を考えました。未来につながる図書館が、現在の自分の場になるよう設計しました。

形の計画

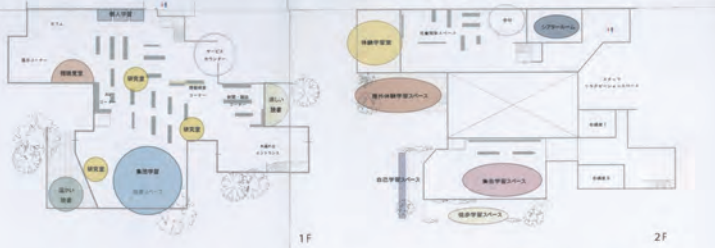
①周りの建物に合わせて、四角く配置

②建物の流れを表現

③車のしなやかさに加え、物語（図書館）へはいつでもよくアプローチ



室内計画



1F

2F

学生空間

- ・個人学習 一人部屋がない・小空間が集まりやすい人のために設けられた空間。時間が限られているため、期限ありのほうを取りくめる人にもいい空間です。
- ・研究室 少数人数制型の空間。本に囲まれて議論していい。ガラス張りなので声を出しても大丈夫。
- ・集議学習スペース 小グループOKのスペース。複読などみんなでしたい、ちょっと読書休憩などに。

子供空間

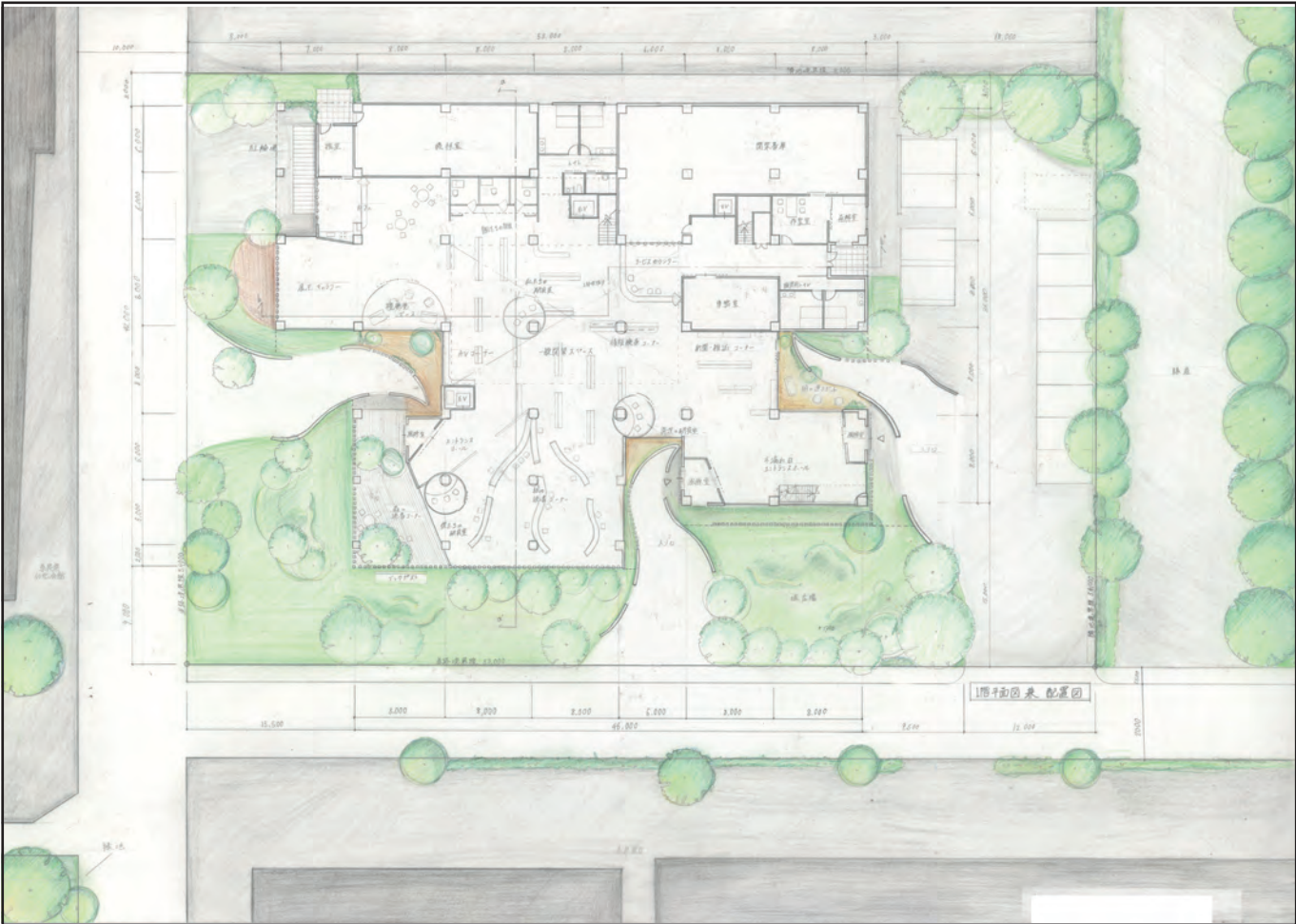
- ・体験型学習 室内を回って来る体験（実験）をしよう！
- ・シアタールーム、お話し場にもなるシアタールーム。世界の不思議に出会える場。

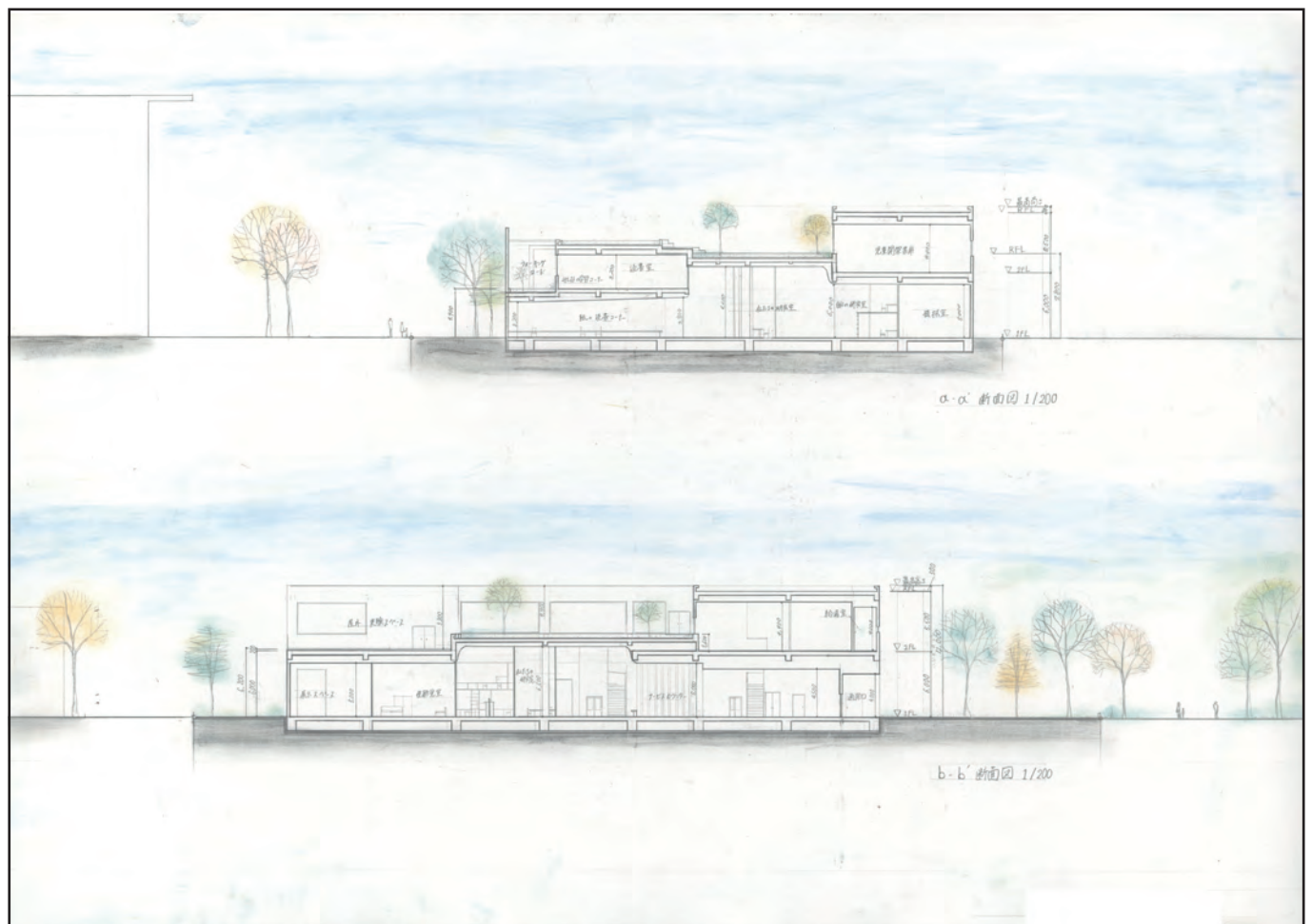
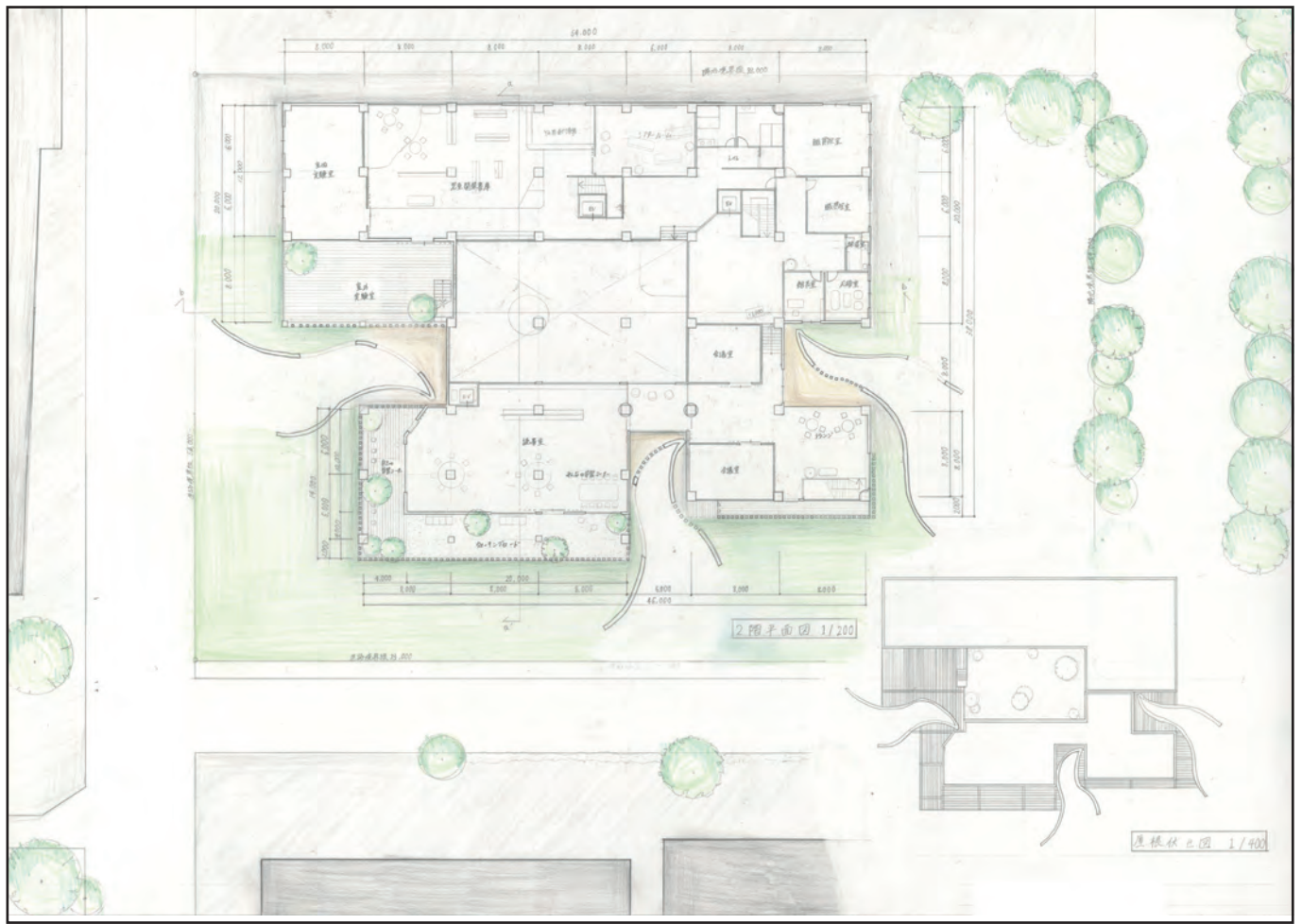
大人空間

- ・集中空間 社会人になってから学ぶことが多いです。静寂空間・集読空間・個人学習など気分が変わる空間で自己を磨いていこう。

部位	仕上げ材
外壁	珪藻土
内装	珪藻土

用途	面積 (㎡)
総面積	4,600
延床面積	3,700
1階	1,800
2階	1,900
屋上	300
延床面積	3,900









Spread・Fulcrum

コンセプト

この作品は地域の人が気軽に入れるような親しみやすい図書館を目指しました。
図書館内の広場の中央に図書スペースがあるのですがそれはYAラウンジで地域の人が作った作品を展示図書館内を歩く人に親しむ機会をもたせようとした。
吹き抜けを大きく取ってあるのは2階間隔にすることでフラットしながら歩を進んでもらうということに広げてあります。

1階の一般図書スペース、児童書スペースは2階から見るとゾラと見えてくる図書館内全体で統一感をもたせようとした。児童書スペースからは広場に面することができ子供達以外でも読んでもらえるようにしました。
子供以外の人でも読んでくれるために2階の南側に屋外の広場を設けそこで本を読んでもらえるようにしました。2階の屋外広場は屋外の開放感からも上がることができカフエからも行けるようにしました。

面積表

1階	1407.5㎡
2階	838.5㎡
延床面積	2246㎡
敷地面積	4402㎡

仕上げ表

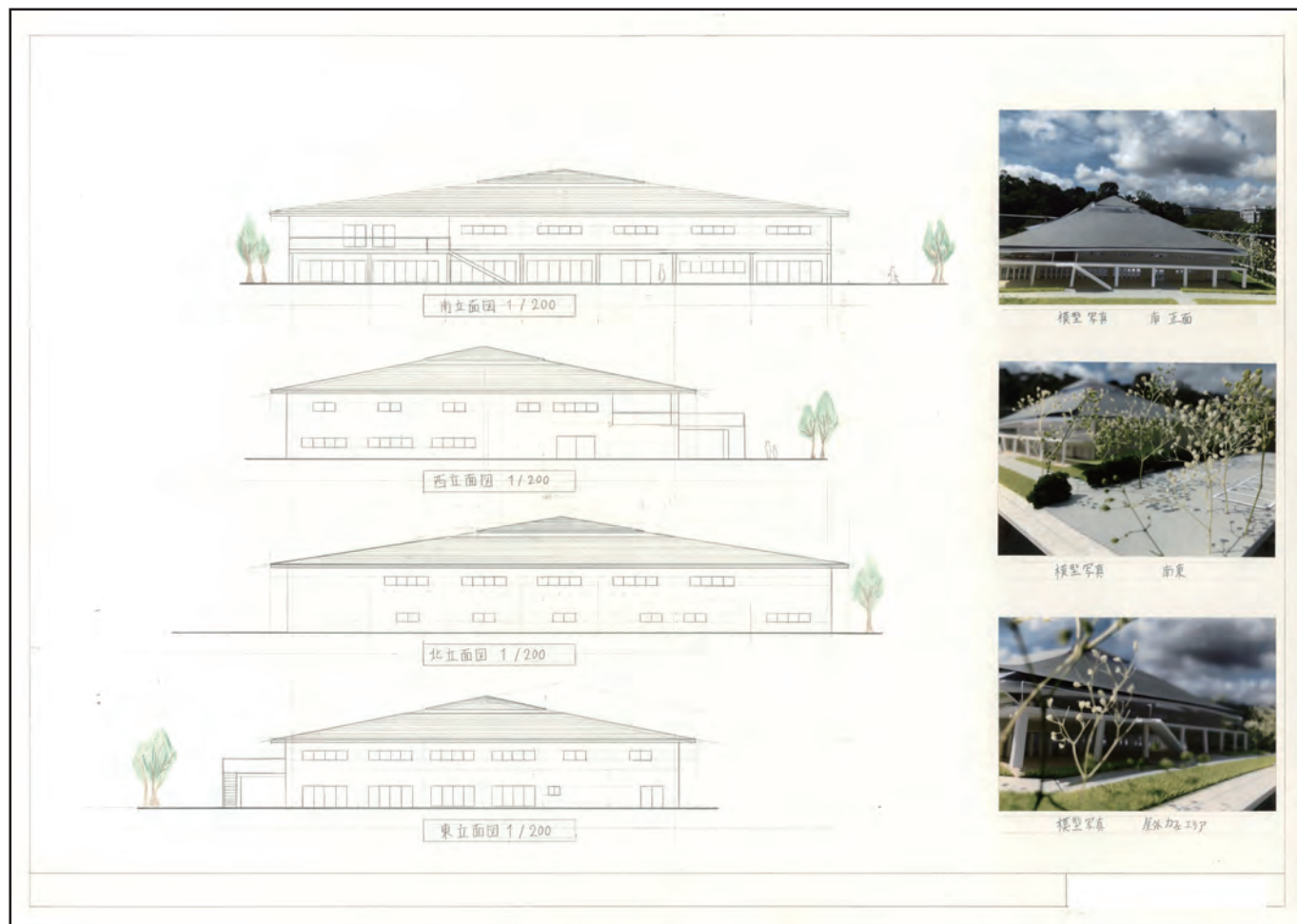
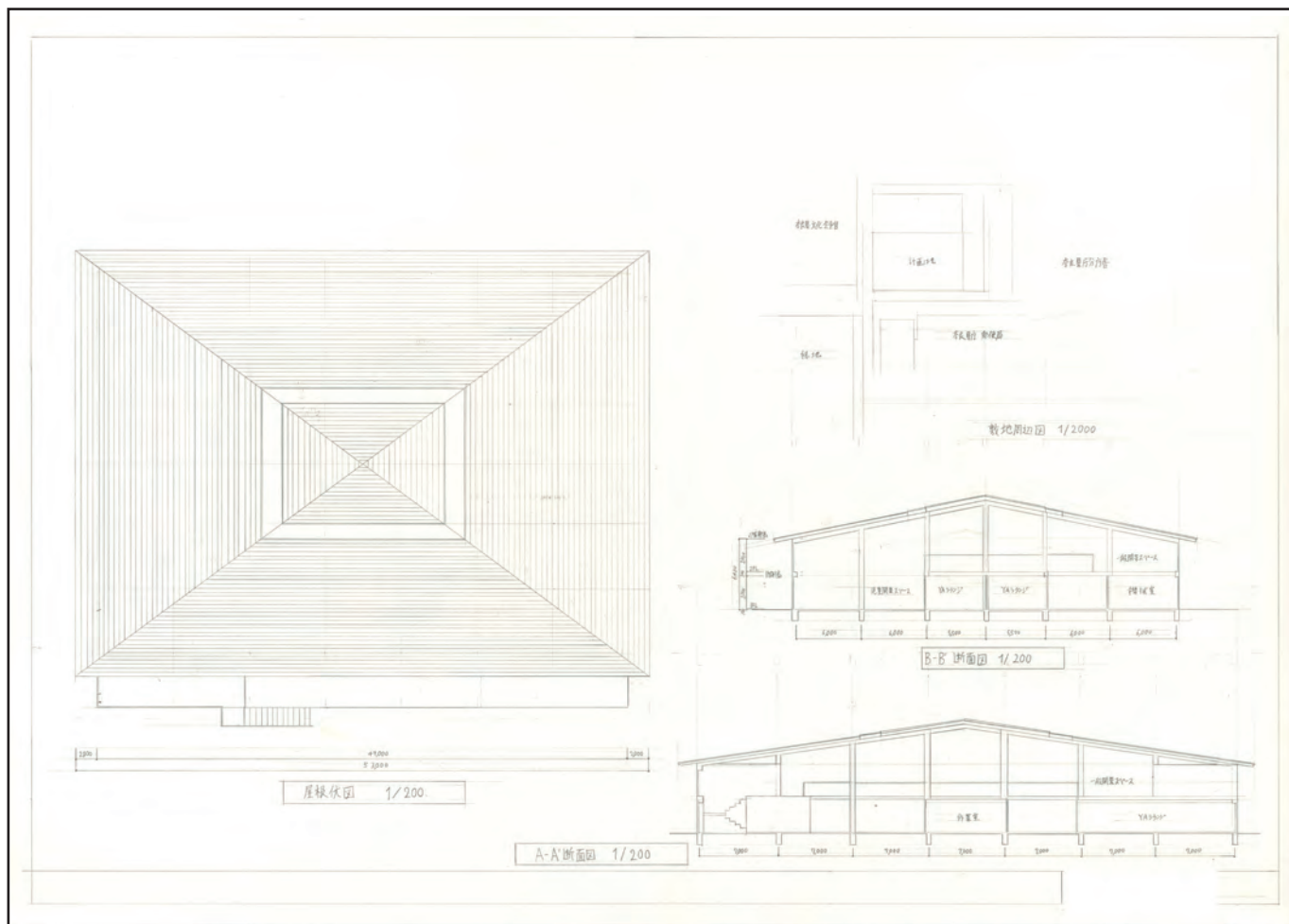
内装	床	壁	天井
YAラウンジ	タイルカーペット	珪藻土	ビニルクロス
会議室	タイルカーペット	珪藻土	ビニルクロス

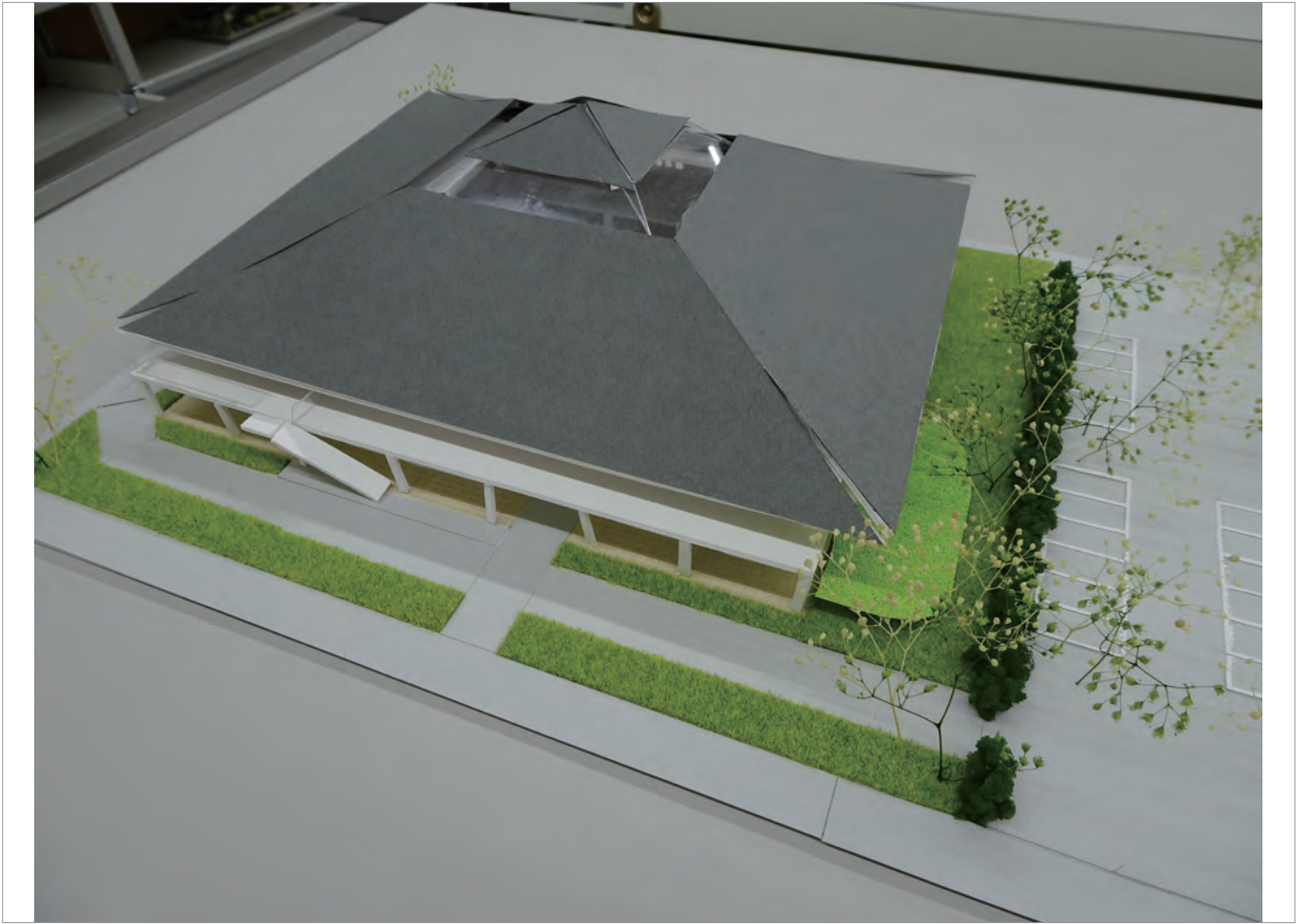
仕上げ表

内装	外装	屋根
床	珪藻土	ガルバリウム鋼板屋根

1階平面図 東配置図 1/200

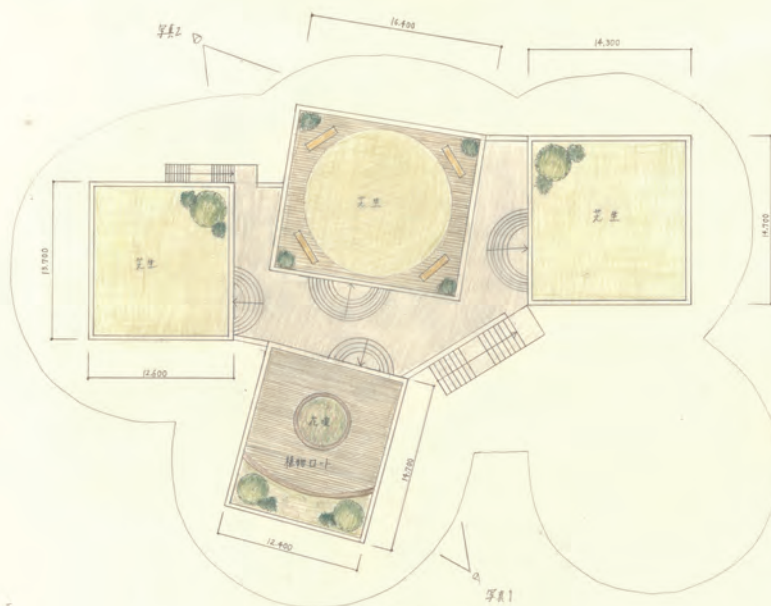






NO IMAGE

[illegible]



屋根伏図 1/200



Y-Y' 断面図 1/200

外部仕上げ表		内部仕上げ表	
外壁	スチール貼リ	床	無垢フローリング
屋根	アスファルト防水	壁	ビニルクロス貼リ
		天井	ビニルクロス貼リ
面積表			
1階	1703㎡	敷地面積	4482㎡
2階	786㎡	建築面積	1703㎡
		延床面積	2489㎡

植物ロードでは
本ヤマがと踊るのに
疲れたら、気分転換に
歩きながら、植物を
楽しんでいただけます。



写真1

花車エントランスは
本ヤマがと踊るのに
疲れたら、気分転換に
歩きながら、植物を
楽しんでいただけます。



写真2



南立面図 1/200



東立面図 1/200



北立面図 1/200



西立面図 1/200



模型 (東)



模型 (西)

人通りが多い南側と西側は、
ガラスが多用なことで、展示スペース、
一般開放スペース、児童遊園スペースが
外から見えていくようになります。



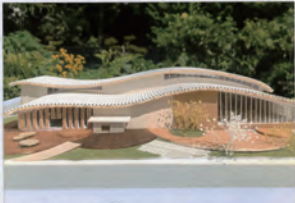
エントランス前には
いくつもの庭で区切られた
花車があり、自然の光の
花車のスペースを確保すること
ができます。



第2課題 永井 菜津実さんの作品（銅賞）

シオリ

～舞台と思い出に残る図書館～



コンセプト
近鉄奈良駅が近くにあるこの土地は奈良公園への観光客が多く見られる。その観光客に奈良の伝統や文化を多く知ってもらうために開放的な舞台を兼ねた図書館を設計する。
図書館は「静かなもの」であって「落ち着いたもの」という印象がある。その固定概念に「暖やかな空間」を足すことで新たな図書館の形を作り上げる。

既存の空間
 800坪
 既存の建物

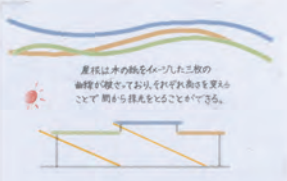
+

新たな空間
 800坪
 新しい建物

ステージを取り入れることにより、暖やかな空間が生まれる。この図書館は様々な場所にステージが設けられており、大きさと高さ異なるため、使い方が異なる用途がある。またそれを自分で見つけていくのも一種の楽しみになる。さらに、導線計画を最適化しメインのエントランスからはそれぞれの用途によって移動しやすくなっている。エントランスに立つと行き先が一目でわかるように、観光客だけでなく地域の人も利用しやすい環境ができた。

奥に行けばほど静かな空間があり、一面は暖やかな図書棚、二階は人を動きまわることができる図書棚、二階奥は静かな図書棚となっている。場所によって空気が変わるのもこの図書館の特徴であり魅力である。

奈良に観光しに来た人が何気なく立ち寄った図書館でまたま癒し物を見て奈良の文化を知って帰るといった自然な場ができ、なおかつ地域の住民に親しみやすい図書館を目指した。



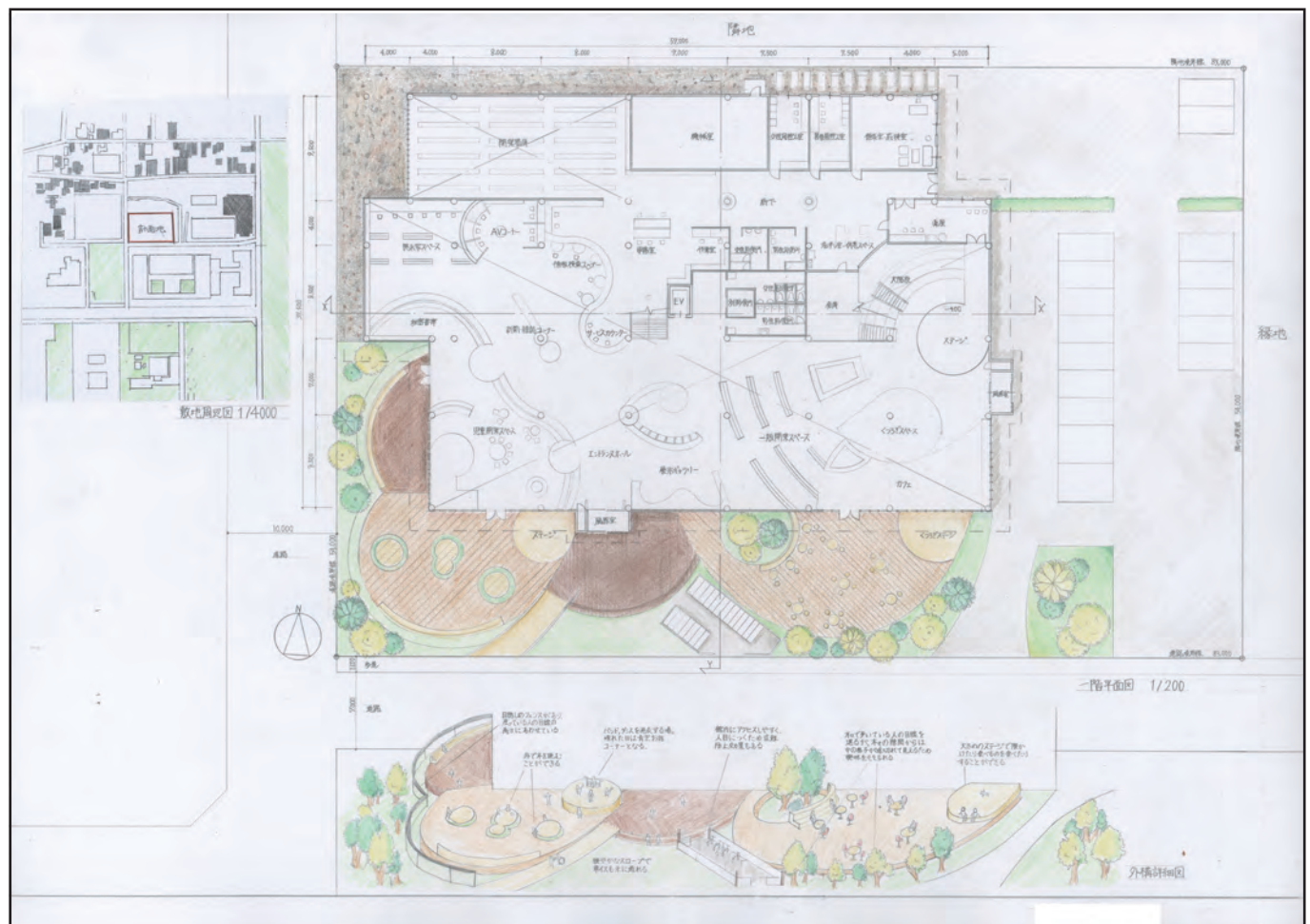
暖かな水の流れをいっしょにこの空間が暖かくなり、それぞれの空気を暖かくして、静かな空間を創出する。

外装材	
屋根	カラーガルバニウム鋼板
内装	押出成形セメント 一部珪藻土(ヒノキ)
開口部	アルミカーテンウォール

内装材		天井	壁	床
一般読書スペース	構造用合板	ビニルクロス張り	漆喰	安野莉フローリング
読書室	構造用合板	ビニルクロス張り	漆喰	安野莉フローリング
読書室・応接室	構造用合板	ビニルクロス張り	漆喰	安野莉フローリング
会議室	構造用合板	漆喰	防音壁材	カーペットタイル

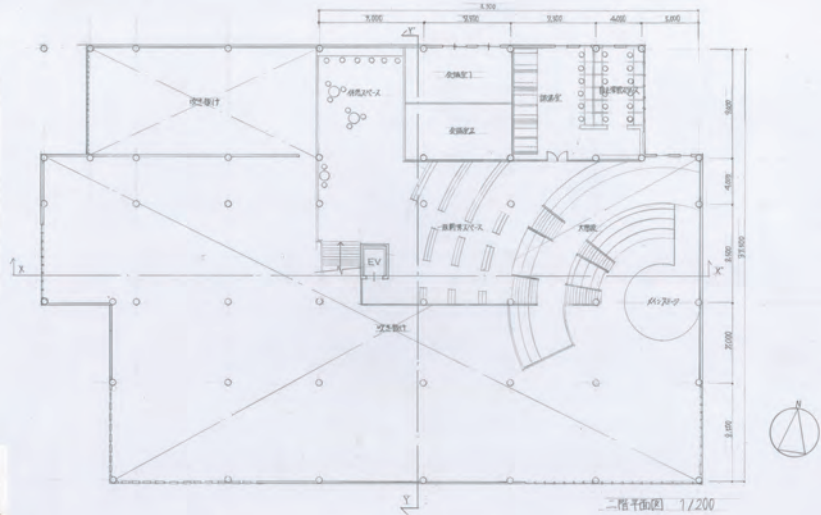
設備	
敷地面積	4,682㎡
延床面積	2,667㎡
建築面積	2,707㎡







〈読書室〉
二階の読書室にある。一人～二人で利用することが
できる個室。広々とした他の空間とは違ったこじんまり
とした場所で読書がはかどる。



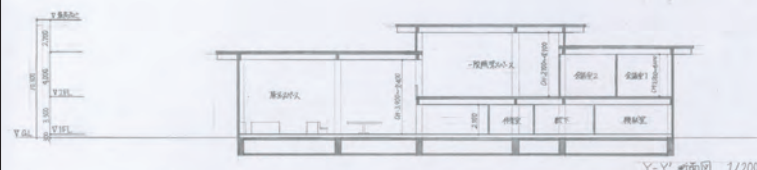
〈展示スペース〉
吹き抜け空間になっており開架書庫を見下ろすことが
できる。一階からは見えない形状を見せることで見た
価値がある。



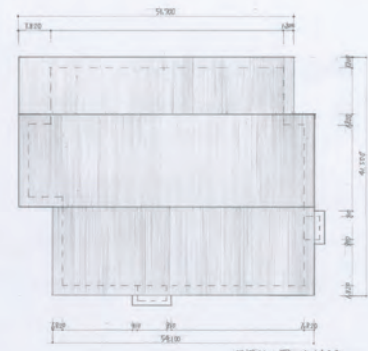
〈居心地よい休息スペース〉
歩道を出た目の前にある休憩スペースで読書室に
お茶を飲む時も利用される。ほっとくれない時は
スタッフ風情が楽しめるスペースになる。



X-X'断面図 1/200



Y-Y'断面図 1/200



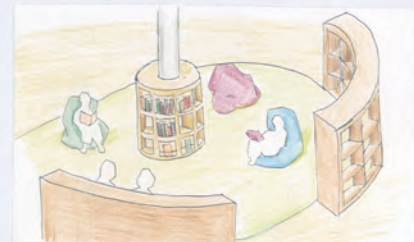
屋根収せ図 1/400



〈展示ギャラリー〉
開架書庫スペースへ行く通り道にあるために鑑覧
しやすい。引き込まれように内陣に入るといった
休憩スペースがある。



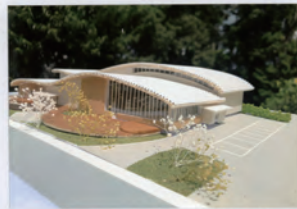
〈読書室〉
他の児童書庫とは異なり、本に囲まれた空間
が広がる。集まった形の木の棚の上へは
は子どもの椅子が置けることで、心配な
親も安心できる。



〈くつろぎスペース〉
土足履きのくつろぎスペース。うたた寝の気持ちもちろめ
可動式読書室からの視線は木棚で遮る。ステージで
利用されているときは観劇席になる。



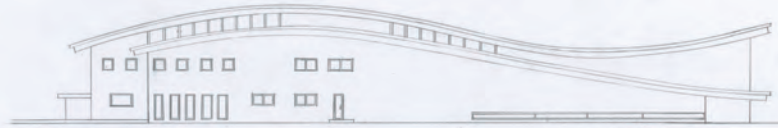
南侧 模型写真



南侧 模型写真



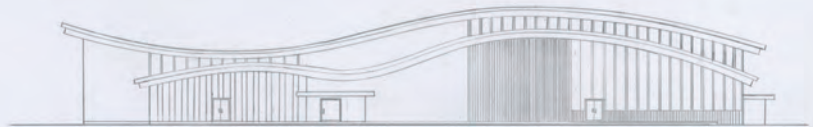
西侧 模型写真



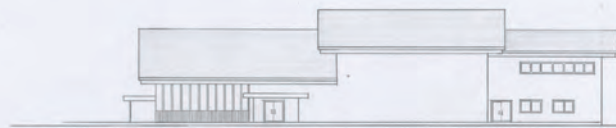
北立面图 1/200



西立面图 1/200



南立面图 1/200



东立面图 1/200



第2課題 中尾 彩乃さんの作品（金賞）

共に生きる



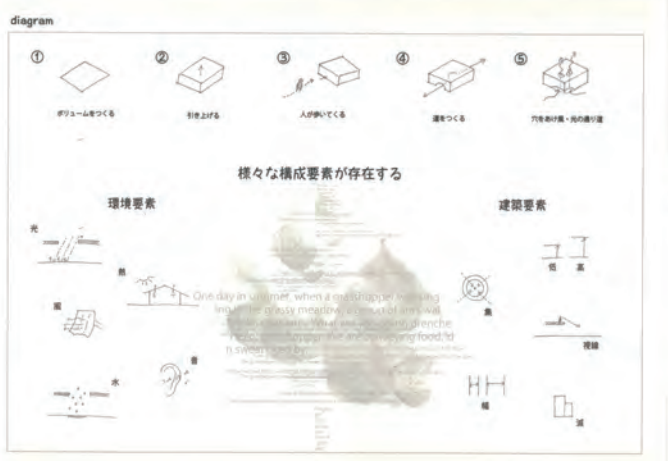
コンセプト
人は自然、自然は命をつくる。人工のものが溢れていくたび、自然は破壊されていく。そこで、人の造作物の発と自然とを共存していくことが必要なのではないだろうか。自然と命の共存を求めて建物に集まりたいんだ。
自然がでると何處でも行きたいと思えるような環境としての図書館を創る。
利用によって自然は生き物のように動く。その変化に気づくものを通しての1つかもしれない。また、時間によって訪れる人も異なるので、車や人の変化に合わせて、建と建物の周囲の空間も変化するよう考えた。しかし、建物の方向性や機能はより高い。そこで、自然の恵みを感じられるよう、自然を近づけて空間を分け、自然の恵みを感じたい。さらに、人の活動が感じられるように、壁ではなく質の低い木や紙で覆った。またそれが、自然の恵みを感じたい人の視線を豊かにする仕掛けになるであろう。



外壁仕上げ	漆喰・白粉土	床	木	壁	漆喰	天井	木
内装仕上げ	漆喰・白粉土	床	木	壁	漆喰	天井	木
一般部	無垢板	木	木	木	木	木	木
図書部	無垢板	木	木	木	木	木	木
会議室	無垢板	木	木	木	木	木	木



diagram



様々な構成要素が存在する

環境要素

建築要素

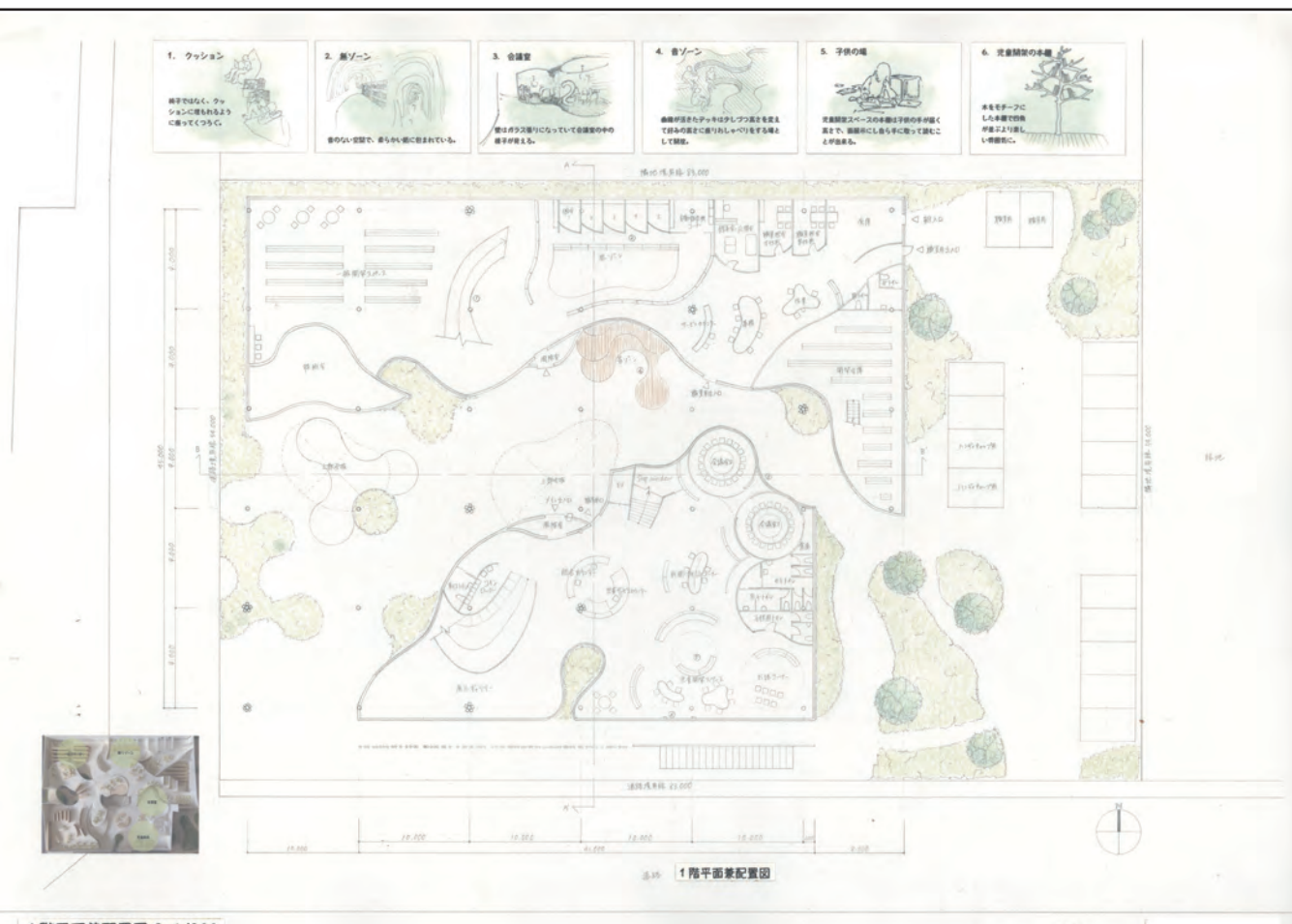
One day in summer, when a child is playing in the grassy meadow, a lot of people are gathered around the building. They are looking at the building and talking to each other. The building is a place where people can meet and share their experiences.



近鉄奈良駅→聖大路→計画地という繋がりを保持するように歩いてきた道が続くように計画することで、自然と計画地に足を運ぶのではないかと考えた。水々が流る聖大路の周囲を建物内にも取り込んだ。柱を削ぎ出しにしておくのではなく、木のモチーフにし、天井のアーチ梁へと繋がるように考えている。緑豊かなある不思議な世界観を感じてもらえることを期待する。

平面で見ると南北が分かれているが、スロープ以外に上部のアーチ梁が繋がっている。道から上を見るとガラスの向こうに繋がりが見える。

聖大路の地形をそのままのイメージとしてスケッチ



1. クッション
椅子ではなく、クッションに座れるように考えてつくった

2. 展示ゾーン
多岐にわたる展示、展示の場を設けている。

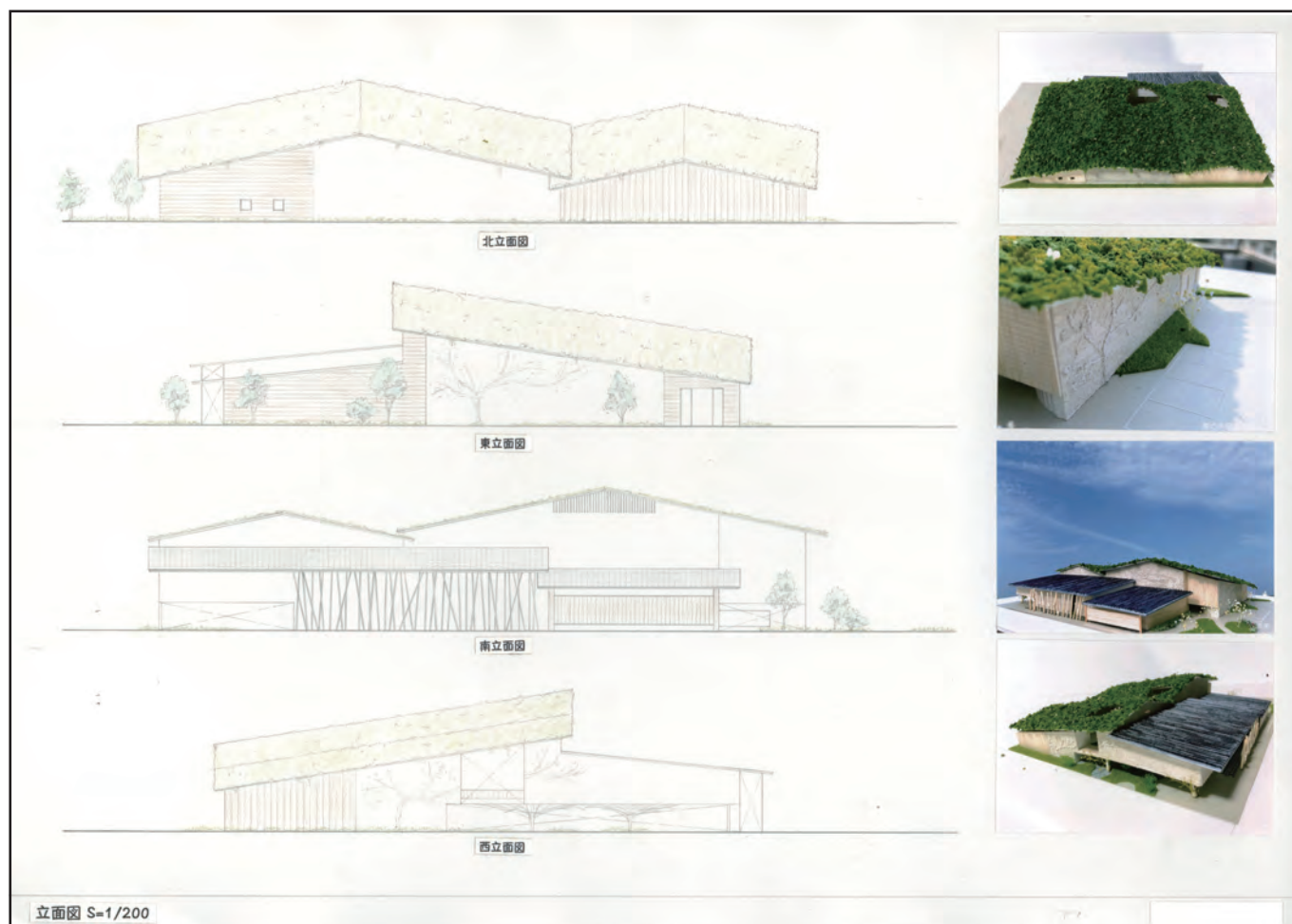
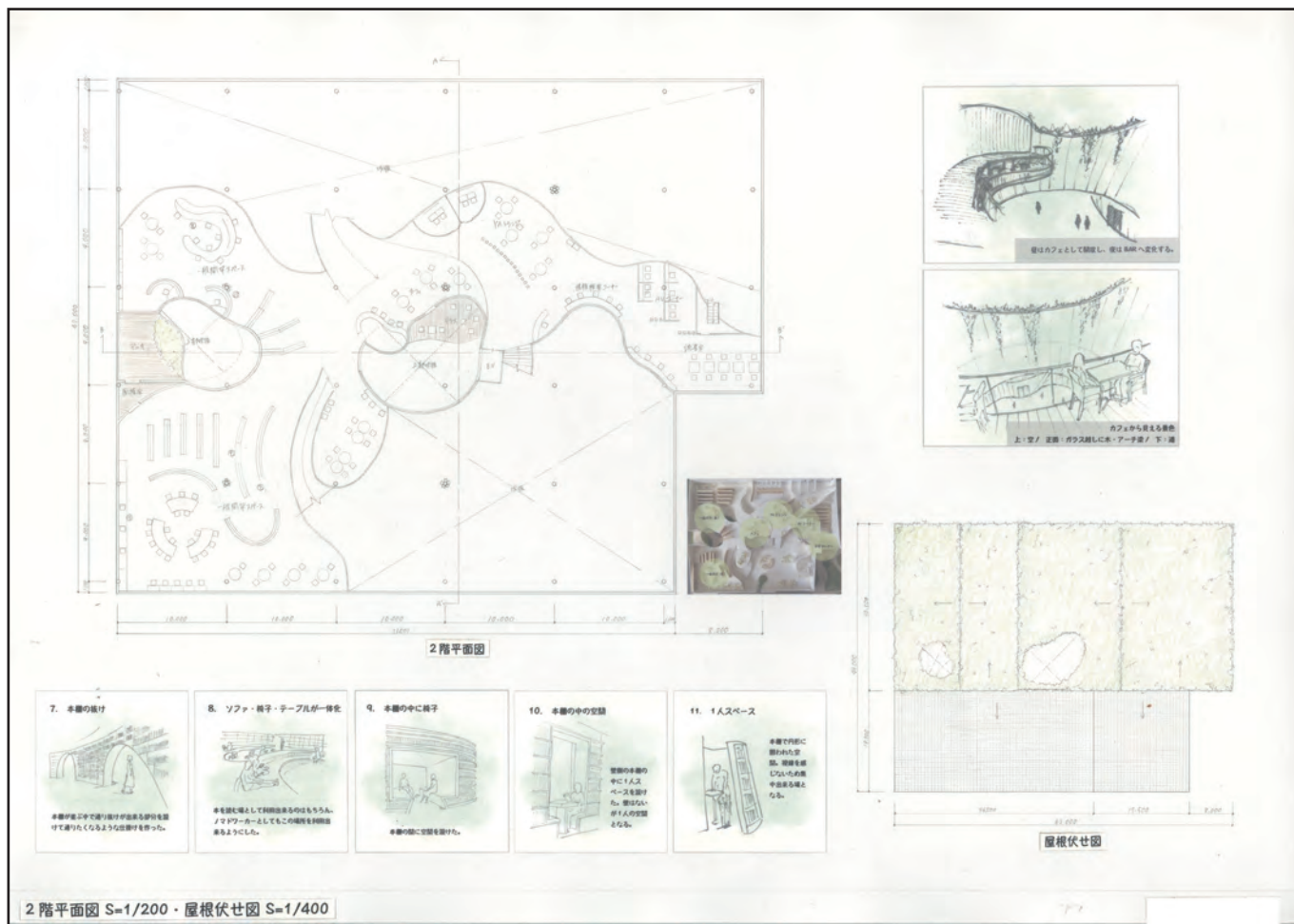
3. 会議室
壁はガラス張りになっていて会議室の中の様子が見える。

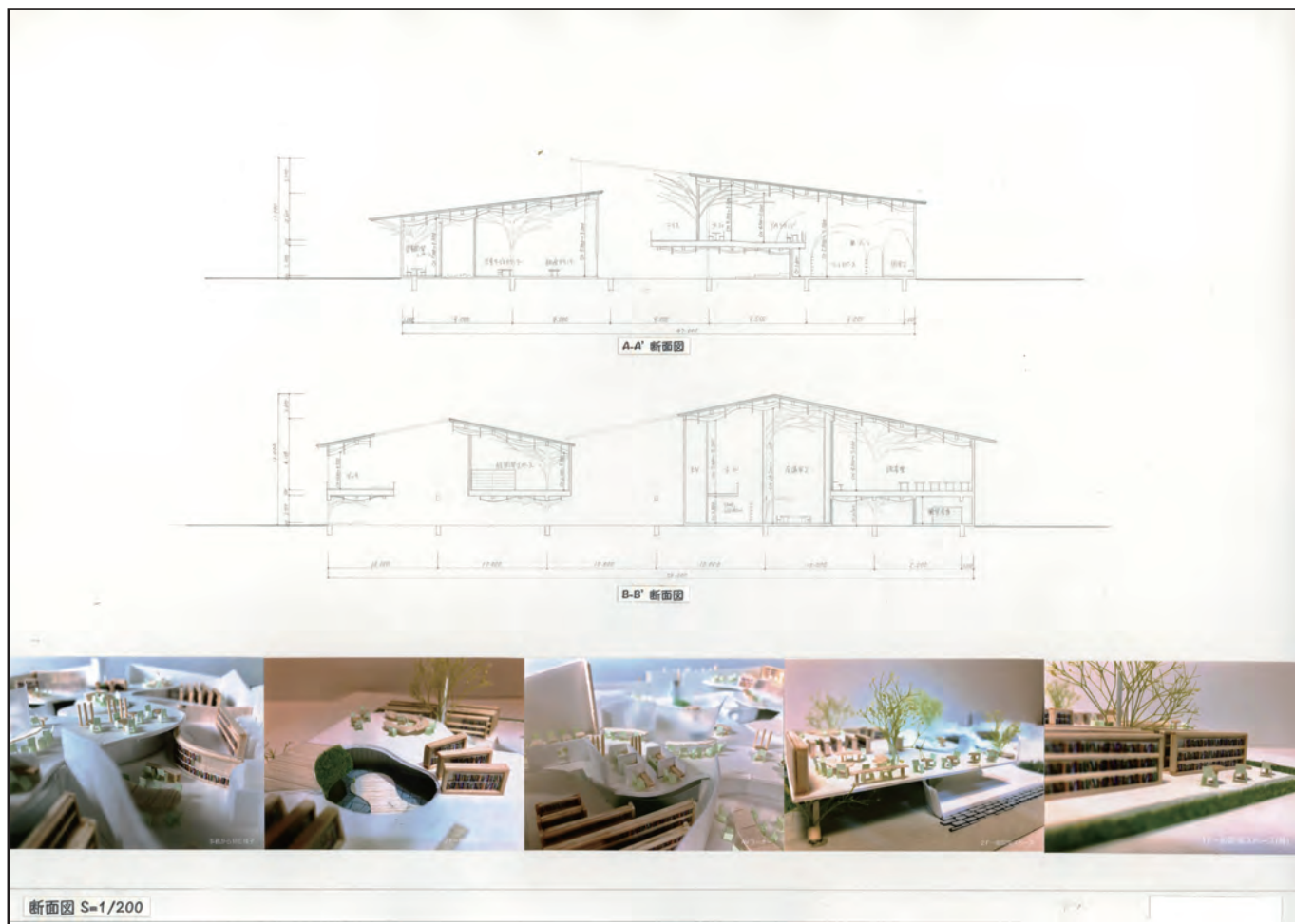
4. 音ゾーン
建物が音の波を反射して音の場を創出している。

5. 子供の場
児童館スペースは子供の手に届く高さで、自然の恵みを感じながら遊べる。

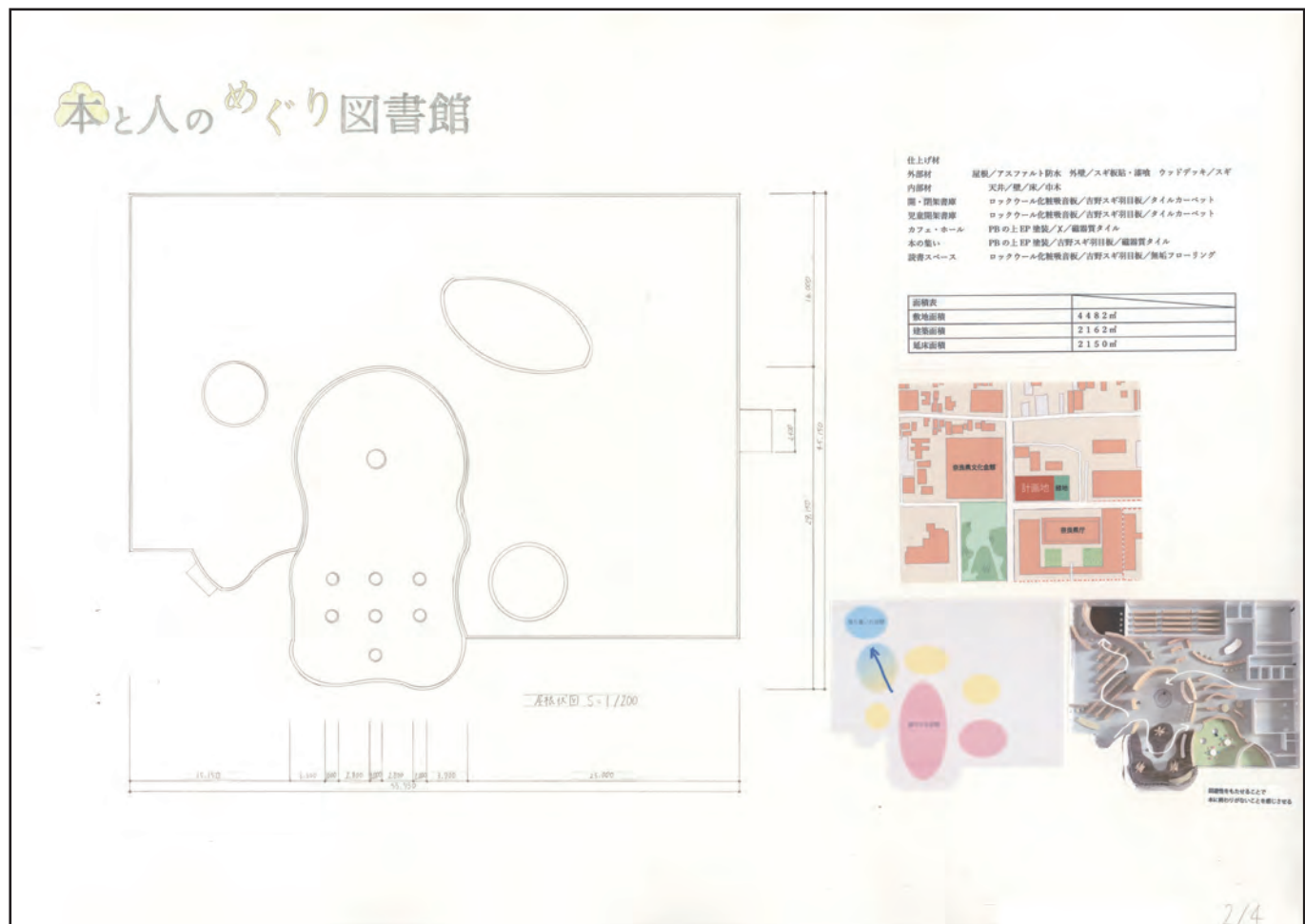
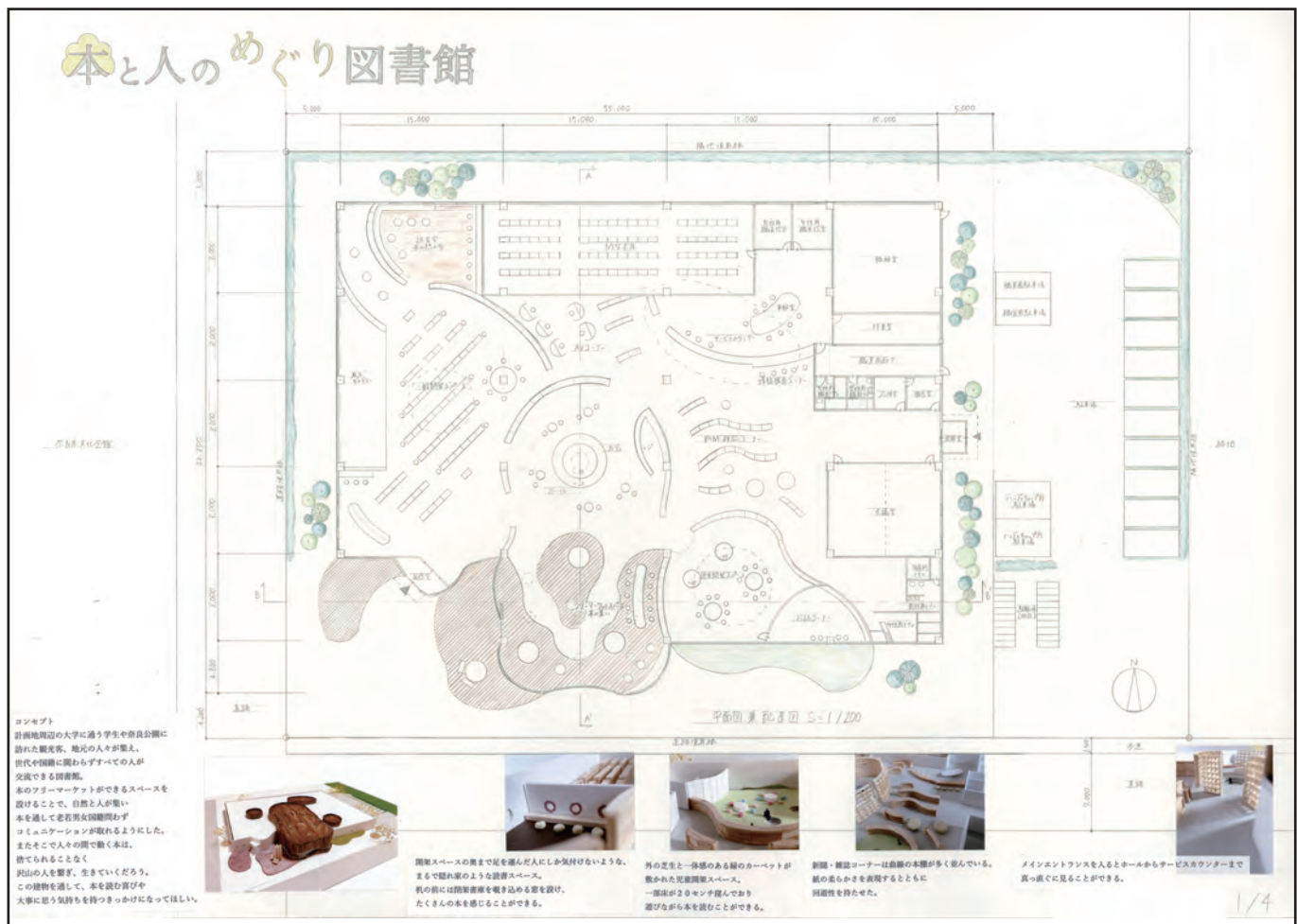
6. 完成後の本館
木をモチーフにした本館で、自然の恵みを感じながら遊べる。

1階平面配置図 S=1/200

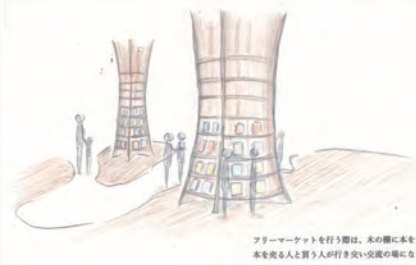
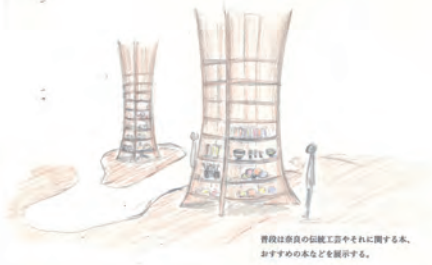
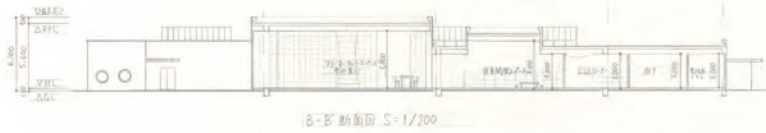
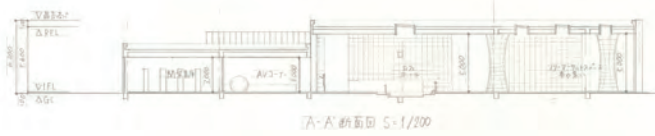








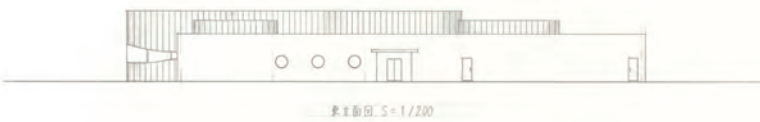
本と人のめぐり図書館



ホールは天井まである本棚で囲まれており、お気に入りの本を読みながら、カフェで休憩をしながら、友達と本を共有しながら、好きな時間過ごすことができる。

3/4

本と人のめぐり図書館



4/4



第2課題 中山 佑華さんの作品





外壁仕上						
	外観	カラーモルタル 主官仕上げ、窓枠側目金張り				
	屋根	ガルバリウム鋼板				
	格子	窓枠用				
内装仕上						
	エントランス	一般床盤	間接照明	カフェ	リノベ・パト	本建主とF&P
						吉野様
						F&P・モビル
床	吉野材	13Lビニル	吉野材	吉野材	既設畳	壁との境
	フロアリング	瓦タイル	フロアリング	フロアリング	タフタッド	AIYコーナー
	カーペット				カーベット	吉野材
壁	木目調	ツブコート	耐熱ガラス	耐熱ガラス	カーベット	フロアリング
	サイディング	半導通ZFRP	化粧石膏カルセル	吉野材格子	モルタル	半導通ZFRP
						モルタル
天井	化粧木張	P6下地	不燃木張り	譲渡バネル	吉野材	P8下地
					ルーバー	不燃木張り
					柵口スラ	

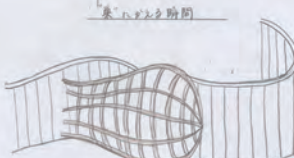
敷地面積		1F	1675.21㎡
建築面積	1822.43㎡	2F	615.50㎡
延べ床面積	2290.71㎡		
容ぺい率	40.16%	容積率	51.10%



不規則の開いた空間は自由な條件で決まる。北側所収より視線の受わりを緩和し、空手道に入浴室に……。



定-1 表現の簡、難の簡
 lower of time 下修に比べて
 約半に半とあり、約半に半とあり
 約半に半とあり、約半に半とあり

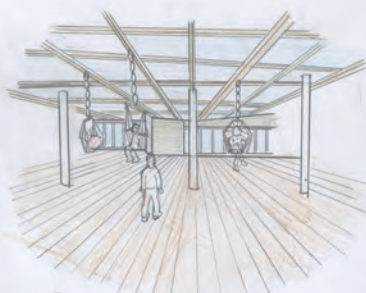


今日は、明日のどきどきの薬を
買ったが、知子には話した人
時間がない。

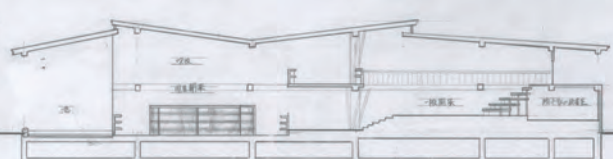
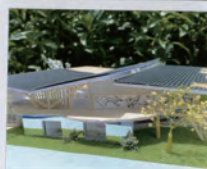
飛星霜 ～命とページが重なる層～	No. 3/5
------------------	---------



解4のデウス IX-24 北東面図 1/200



一般開業、YAラウンジとは
一棟を合した「眠りの空間」を
提供するエッセンス。心地良い揺れ
と光が特徴である。なお、

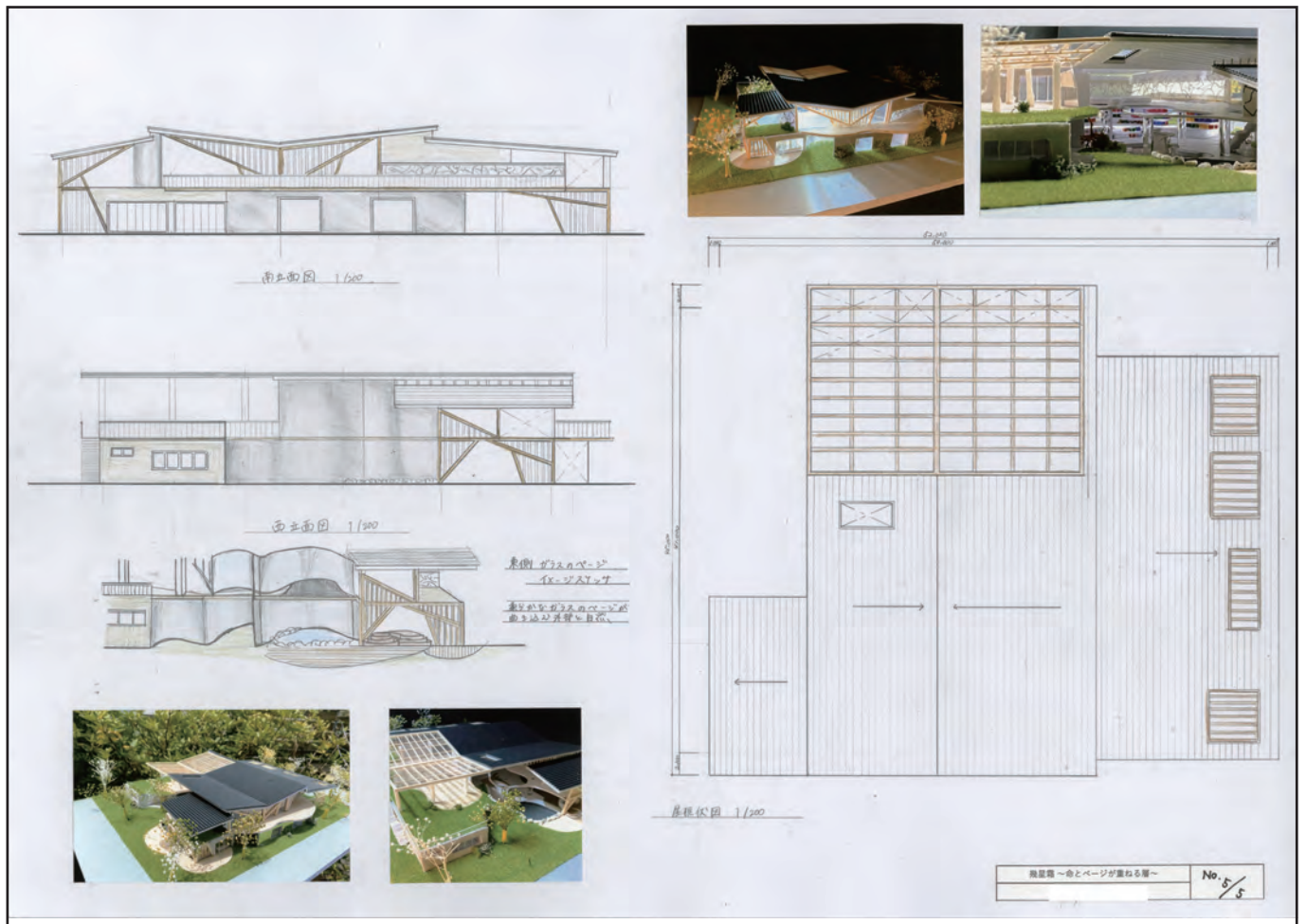


X-X'剖面图 1/200



Y-Y' 剖面图 1/200

機屋番 ~命とページが重なる番~	No. 4/5



第2課題 松尾 英治さんの作品



地の香・空眺の図書館

空眺

奈良の街の中に、若草山のようにゆったりと空を眺めることができる場所を作ろうと思い、2階に設けた数地のコーナーに向かって伸びる芝生の傾斜広場であるグリーンヒル。

地の香

奈良の特産品を用いて観光客を呼び込み、地域住民の憩いの場となる空間を作ろうと思い、豊かな香りを発する奈良の特産品である吉野材と大和茶を取り上げ、それぞれのショップと奈良由来の香りで溢れる香りの間を本棚の見出しをイメージした壁に組み込んだ。

(No1)

地の香・空眺の図書館

コンセプト

奈良に風や文化ホールがあり、東大寺や興福寺からも近い地に立つ奈良の地域図書館であること、どうすれば奈良の特産品を用いて観光客を呼び込み、そして地域住民の憩いの場となる豊かな空間をつくれるのかを考え、香りを一つのコンセプトとして設計した。

そこで豊かな香りを発する奈良の特産品である吉野材と大和茶に着目し、奈良西の通りに面した建物の2階に吉野材の家具ショップと大和茶を提供するショップ、そして吉野材の椅子に隣接して大和茶を飲むことができる奈良由来の香りで溢れる香りの間を設けた。アクセスしやすい場所にこの空間を設けることで、同時に、そして無意識に奈良の特産品の魅力に触れてもらうことができるようにした。また2階には若草山の斜面をイメージしたグリーンヒルを設け、芝生の斜め空を眺めながら本を読むことができる、一般的な図書館にはない読書空間とした。

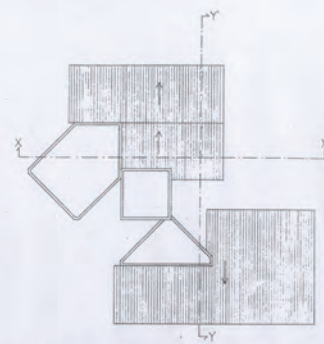
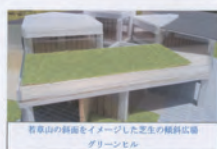
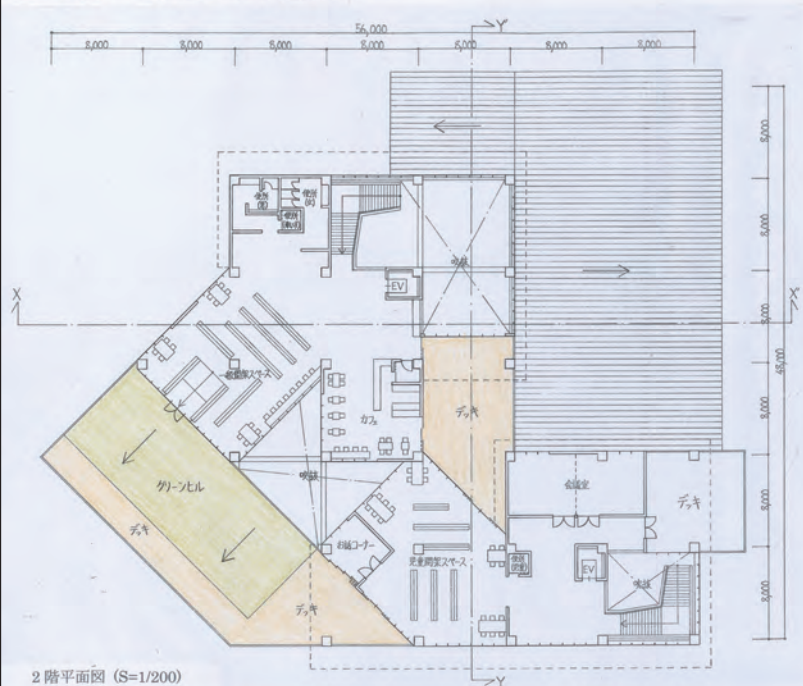
①から 様々な角度で差し込み、吉野材の香りを纏う地の香の見出しの壁。手前は大和茶ショップカウンター、奥は香りの間のゾーン。(内観パース)

②から 地の香の見出しの壁をボロイよりガラス越しに見る。右側はライトコート。

1階平面図兼配置図 (S=1/200)

(No2)

地の香・空眺の図書館

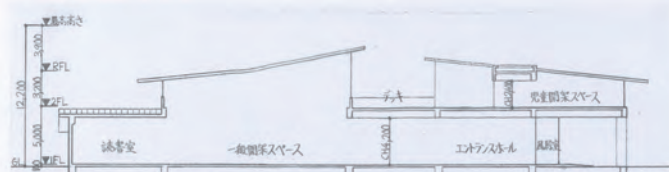


面積表	
敷地面積	4,882 m ²
建築面積	2,006.44 m ²
床面積	
1階	1,096.64 m ²
2階	800.02 m ²
計	2,496.66 m ²
構造	RCラージ構造

仕上げ表	
外壁	カラー鋼板葺き、カラーモルタル、杉目板
屋根	カラー鋼板
内装	
床	合野杉フローリング
天井	木製吊钩
壁	石膏ボード、合野杉無垢板張り
床下	合野杉無垢板張り

(No3)

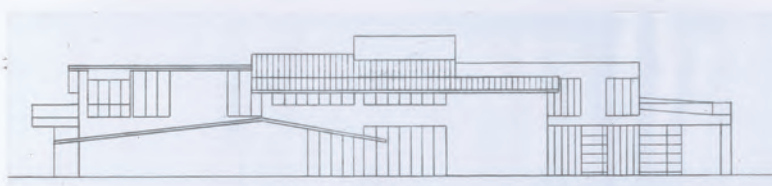
地の香・空眺の図書館



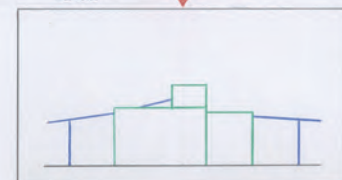
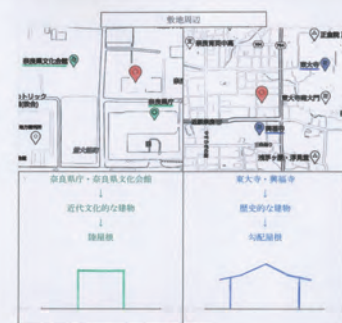
Y-Y断面図 (S=1/200)



西立面図 (S=1/200)

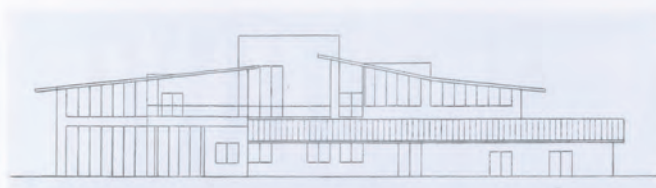


北立面図 (S=1/200)



(No4)

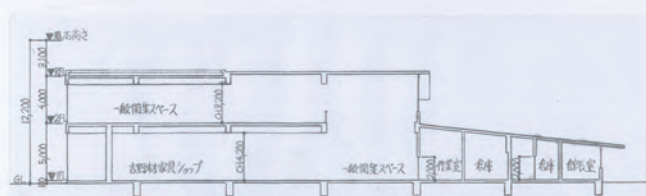
地の香・空眺の図書館



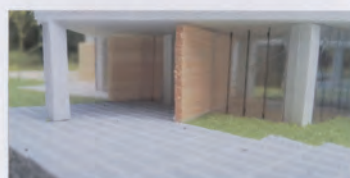
東立面図 (S=1/200)



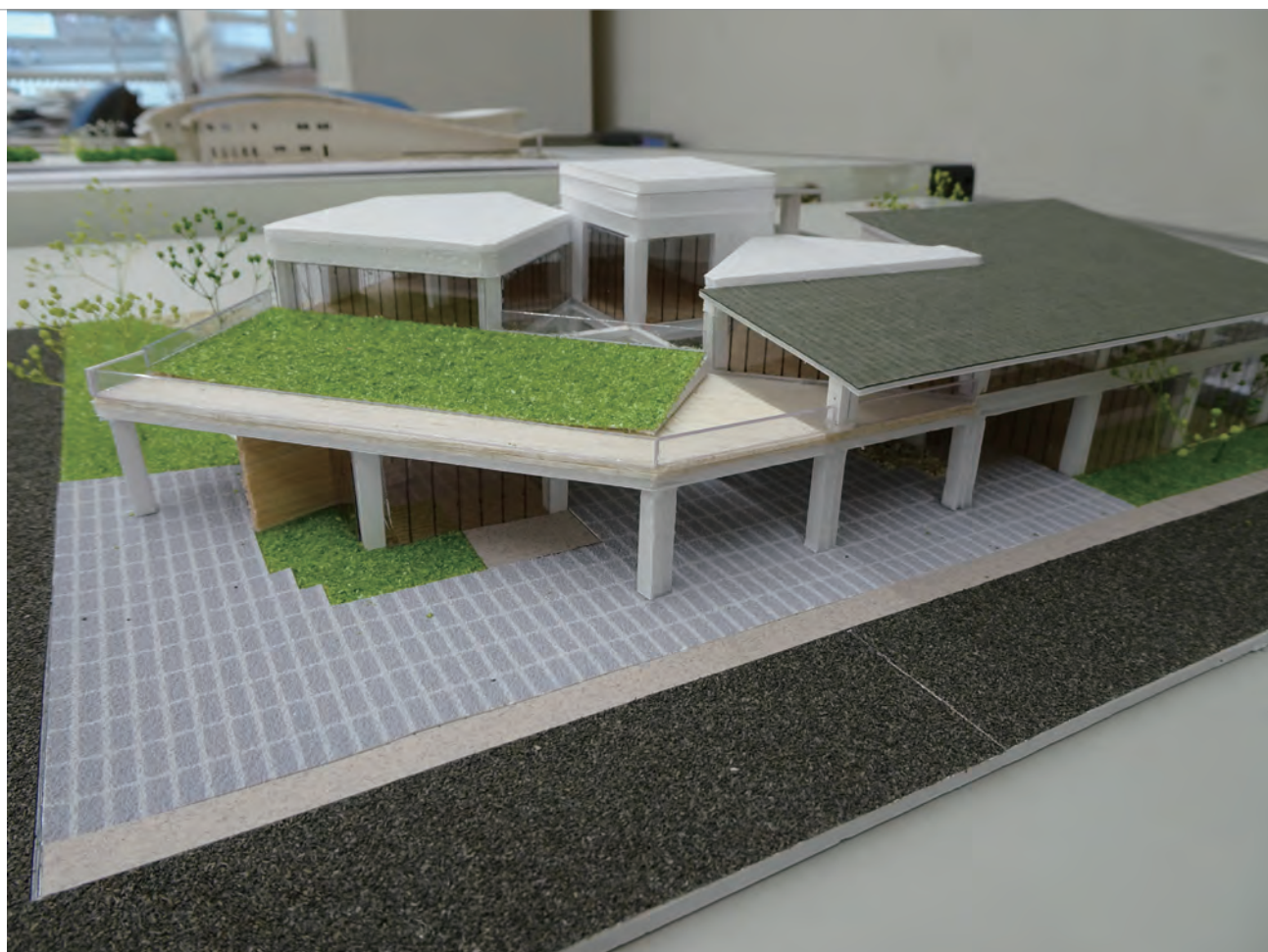
南立面図 (S=1/200)

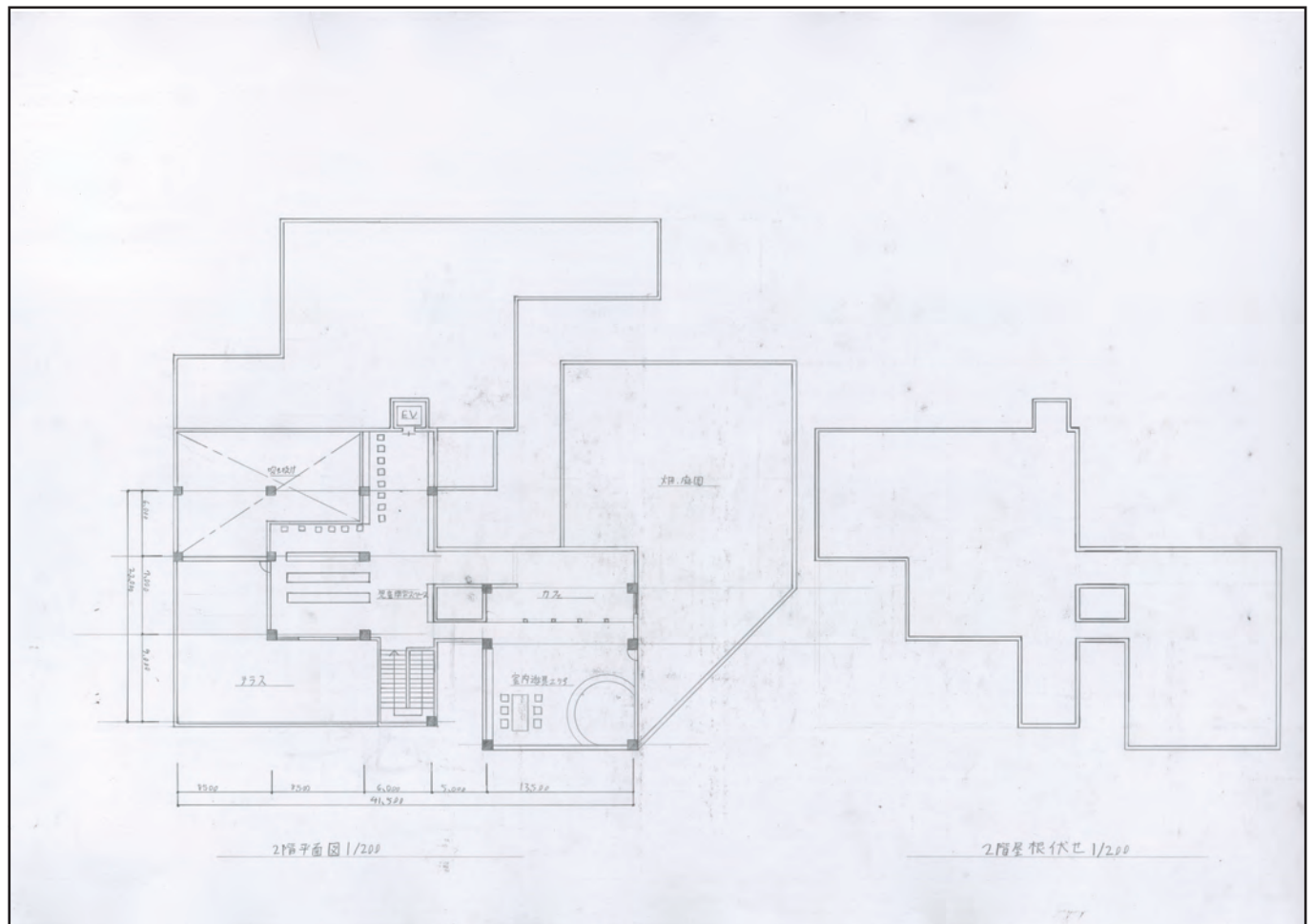
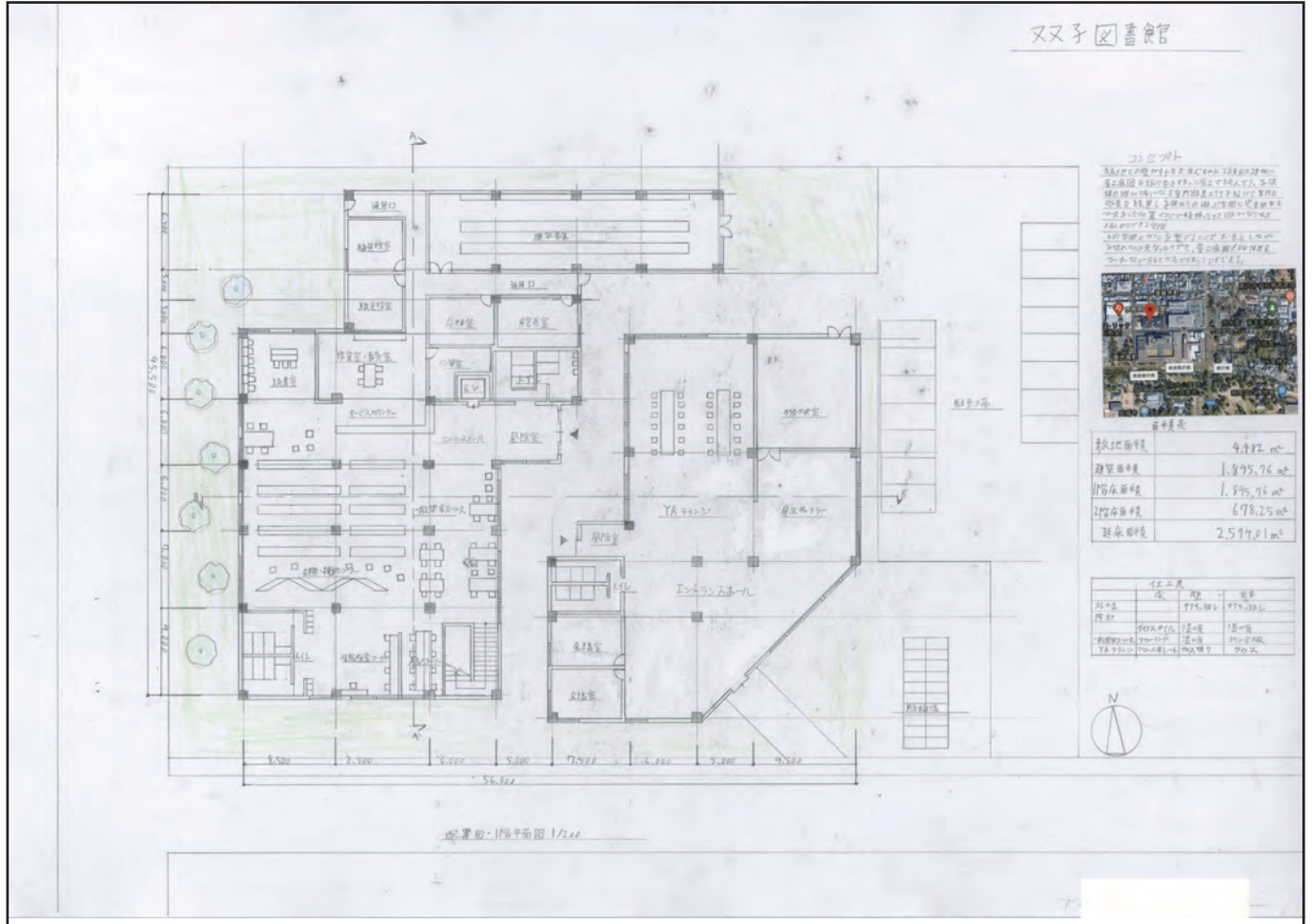


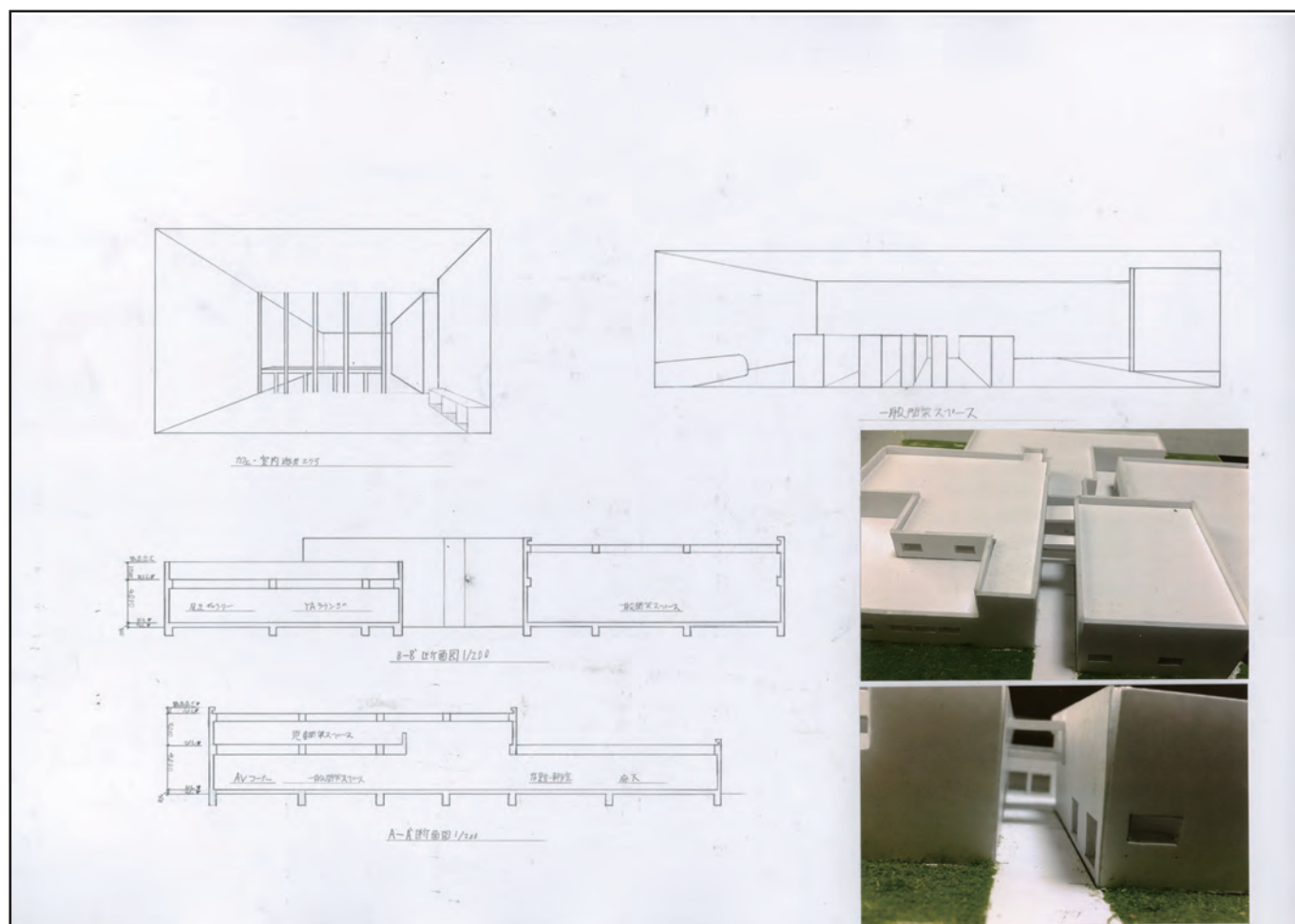
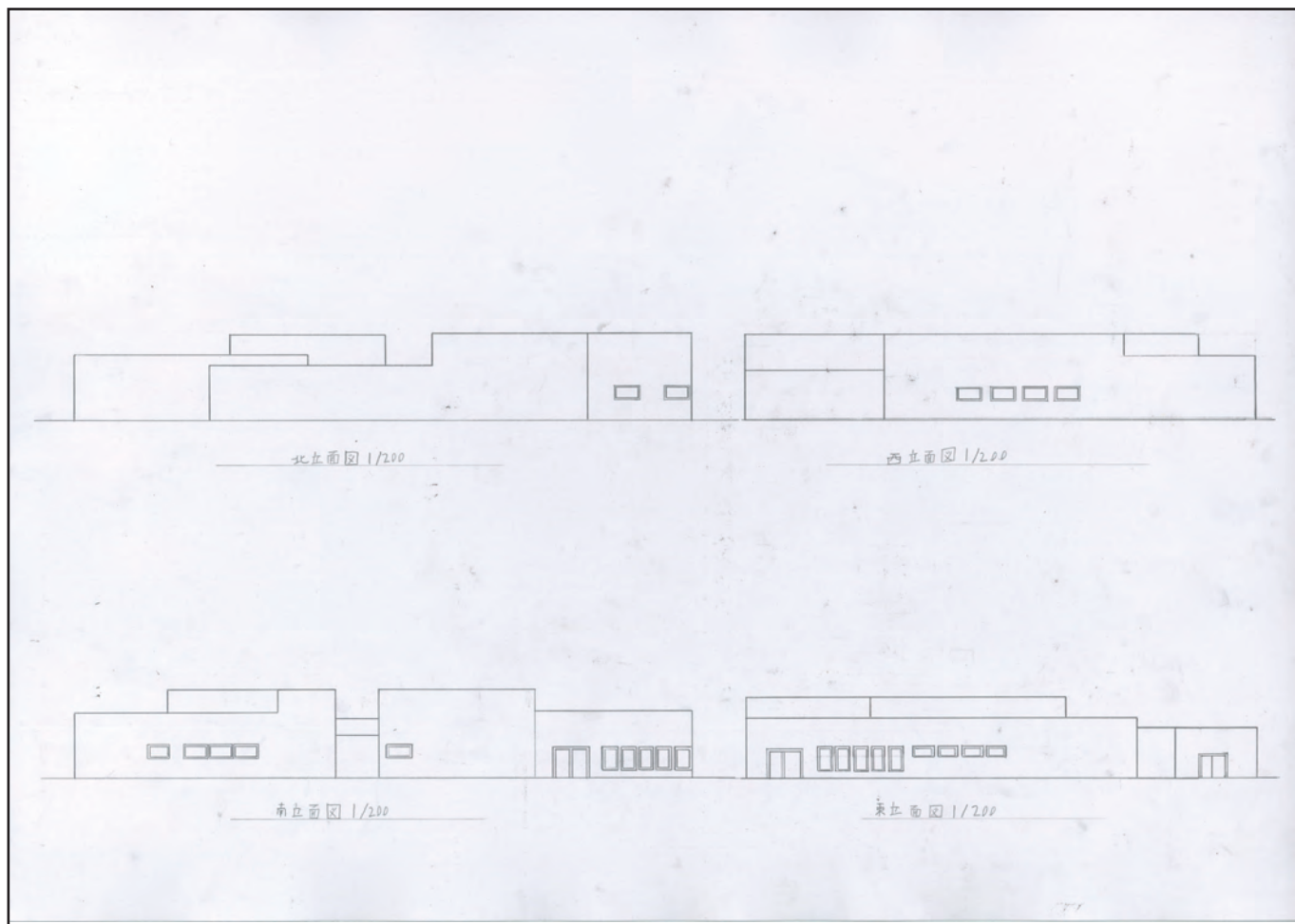
X-X断面図 (S=1/200)



(No5)



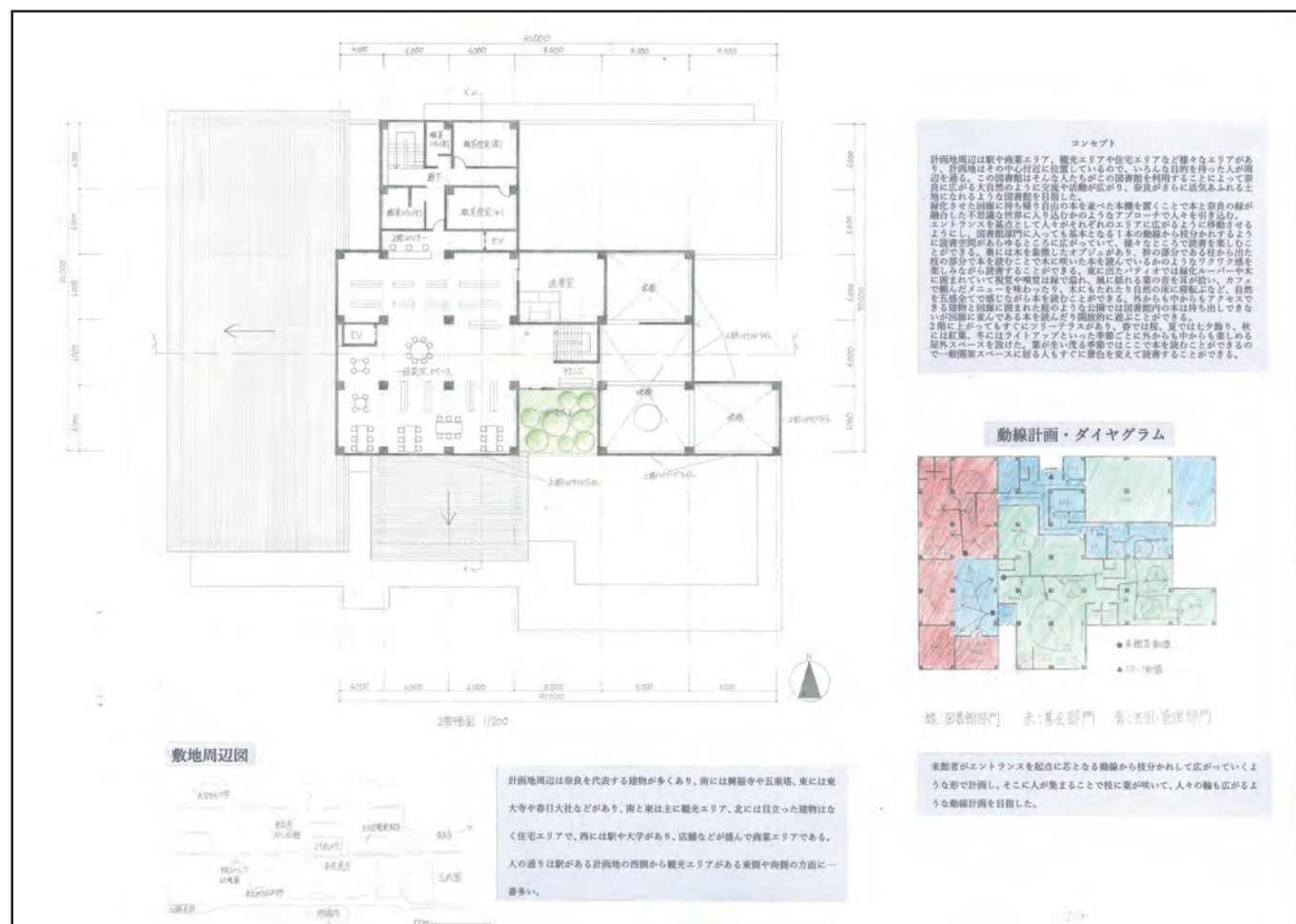






NO IMAGE

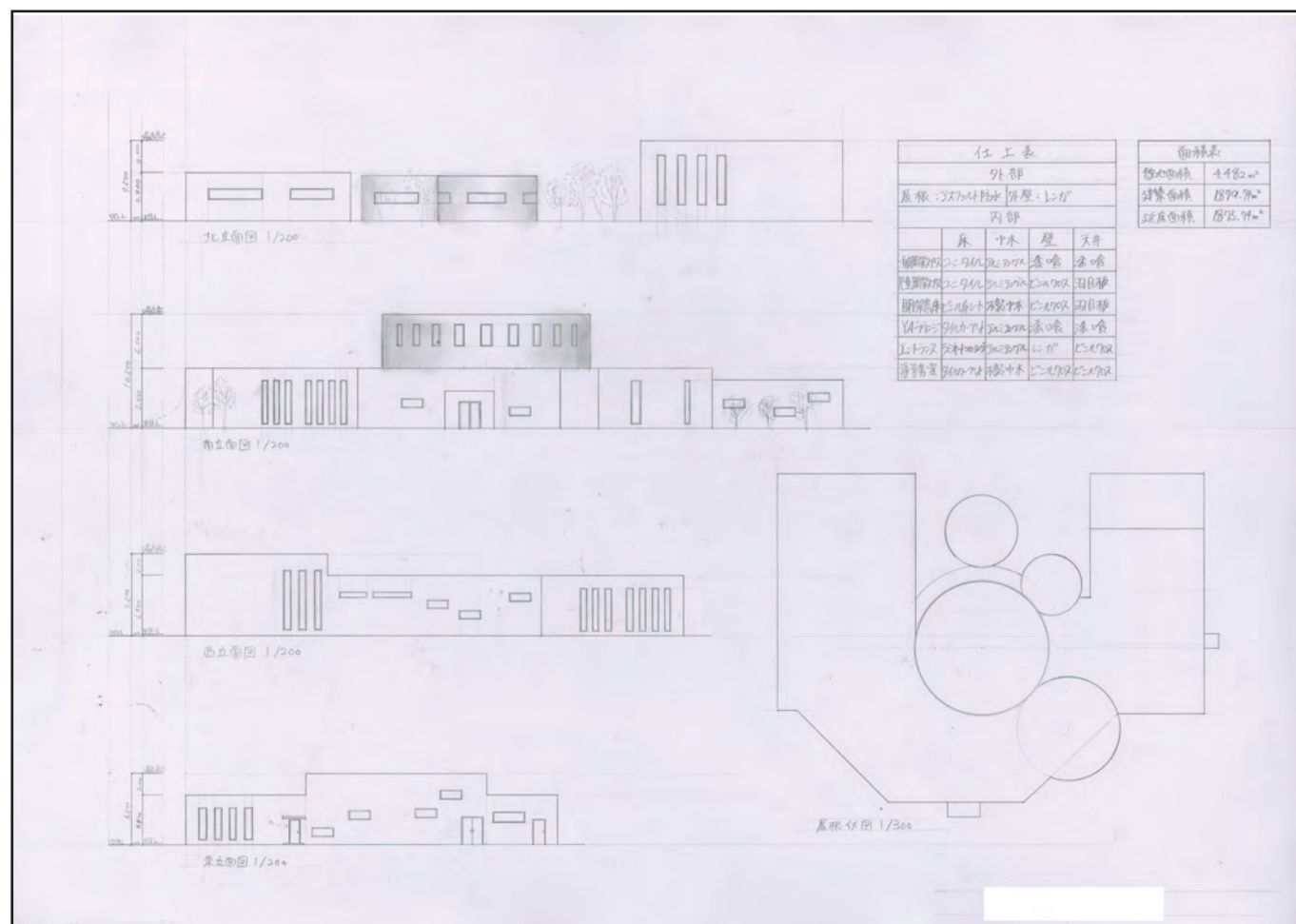
奈良広葉図書館

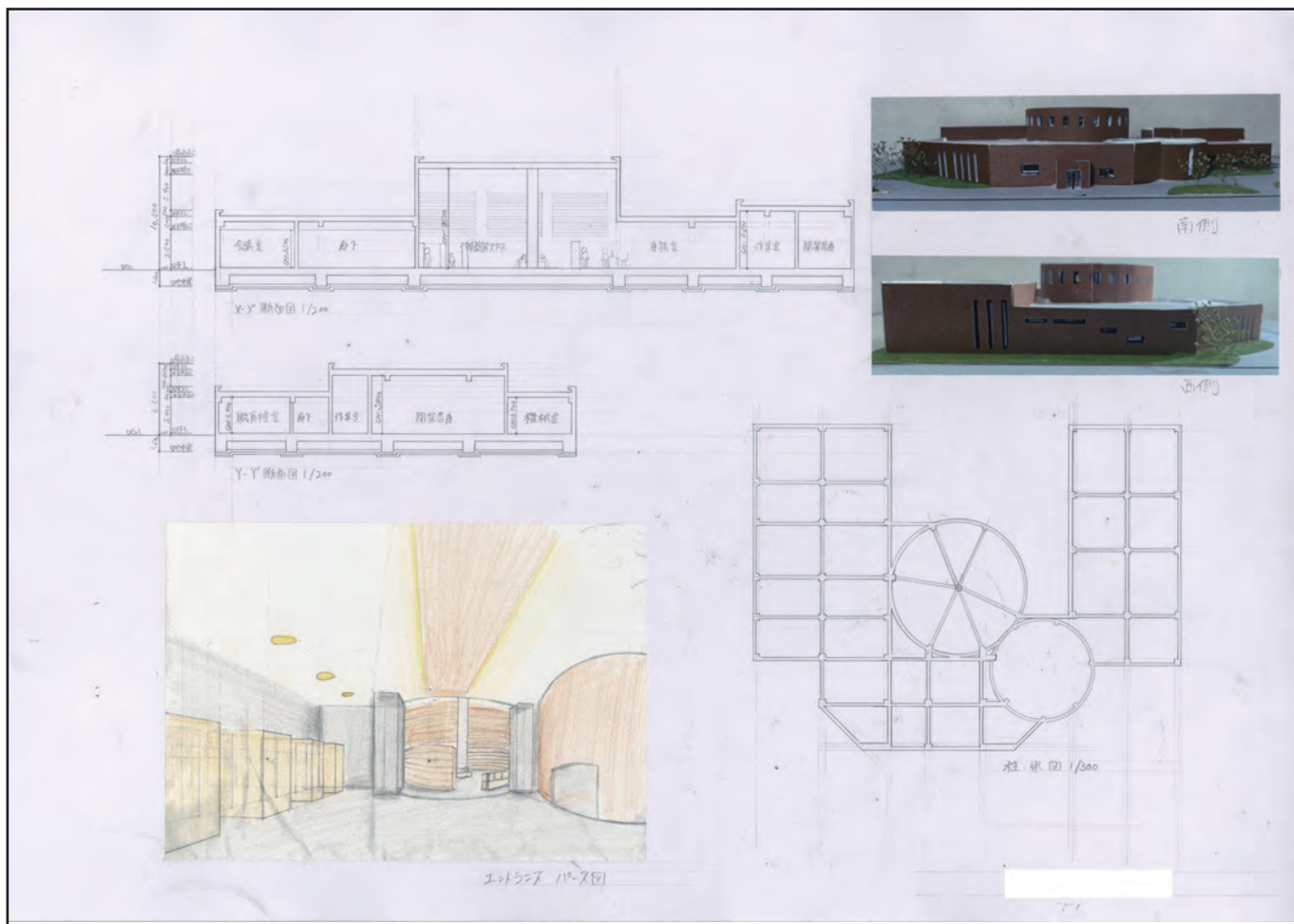




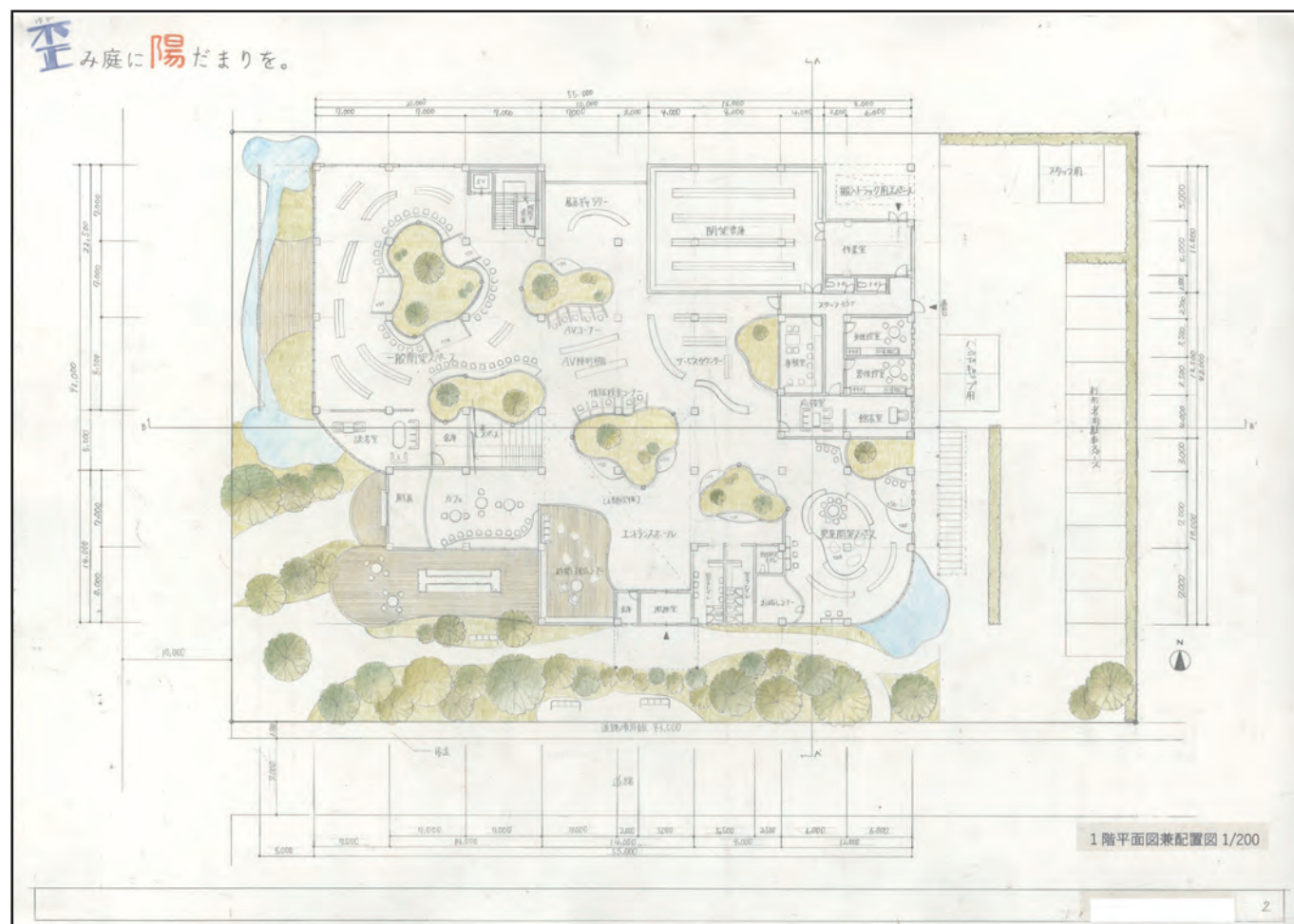
NO IMAGE

第2課題 源望さんの作品

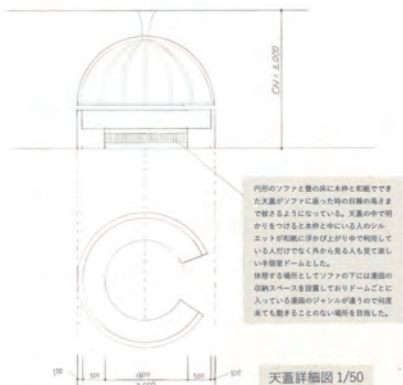




第2課題 山野 陽南子さんの作品



空み庭に陽だまりを。



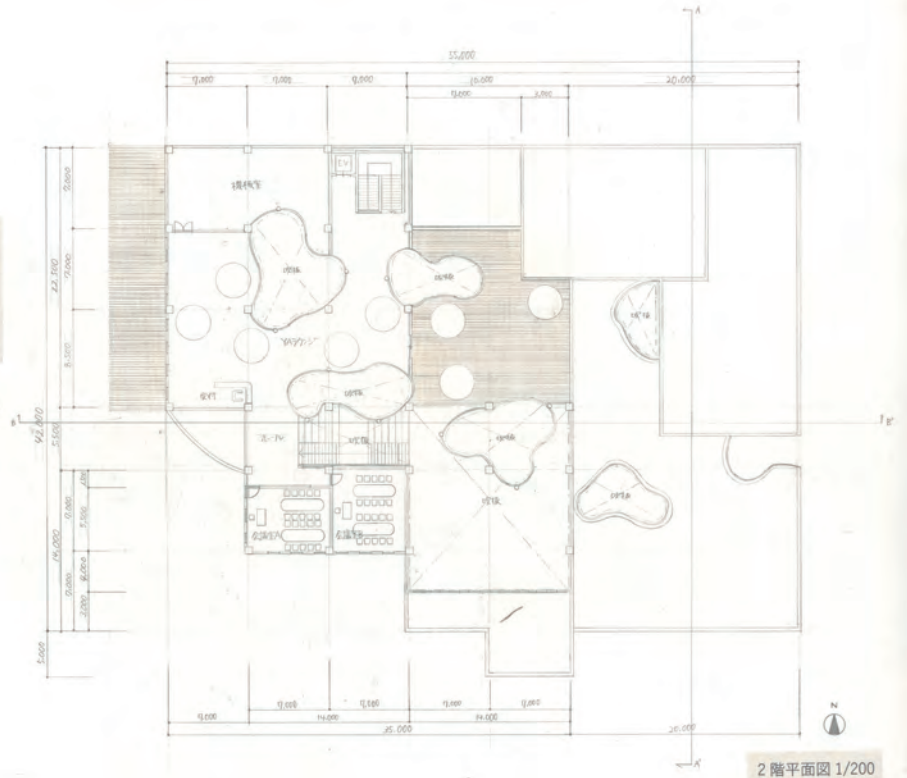
ラウンジ個室	
床	ソファ/畳
天井	木造/白粉和紙



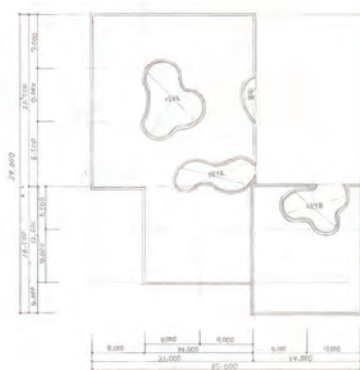
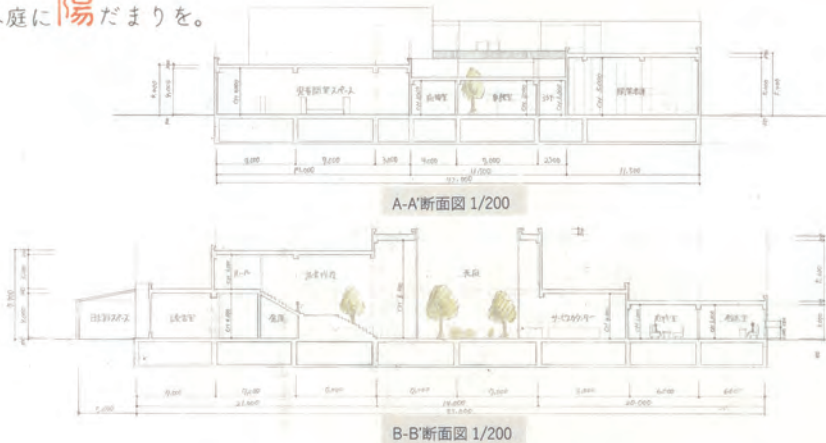
↑内側から見た様子



外側から見た様子



空み庭に陽だまりを。



内装仕上げ	床	壁	天井
一般用室スペース	タイルカーペット	珪藻土仕上げ/カーテンウォール	EP塗装
従業員スペース	タイルカーペット	珪藻土仕上げ/カーテンウォール	EP塗装
休憩・廊下コーナー	フローリング	クロス張り	(吹き抜け)
図書室	フローリング板張り	クロス張り	木質系クロス
エントランスホール/廊下/その他	モルタル仕上げ	クロス張り/カーテンウォール	ウッドパネル
小上がり	畳	ルーバー	
図書室	タイルカーペット	珪藻土仕上げ	EP塗装
スタッフ図書	フローリング板張り	クロス張り	木質系クロス
会議室	ビニルシート	クロス張り	木質系クロス
YAラウンジ	フローリング板張り	クロス張り	EP塗装
中庭	(外部)	カーテンウォール	(外部)

外装仕上げ	床
外壁	漆喰(木ずり)仕上げ
屋根	シート防水/遮熱防水

面積表	面積
1階延床面積	1,299.5㎡
2階延床面積	519.5㎡
延床面積	2,419㎡
敷地面積	4,482㎡



歪み庭に陽だまりを。



南立面図



東立面図



北立面図



西立面図



全館写真1



全館写真2



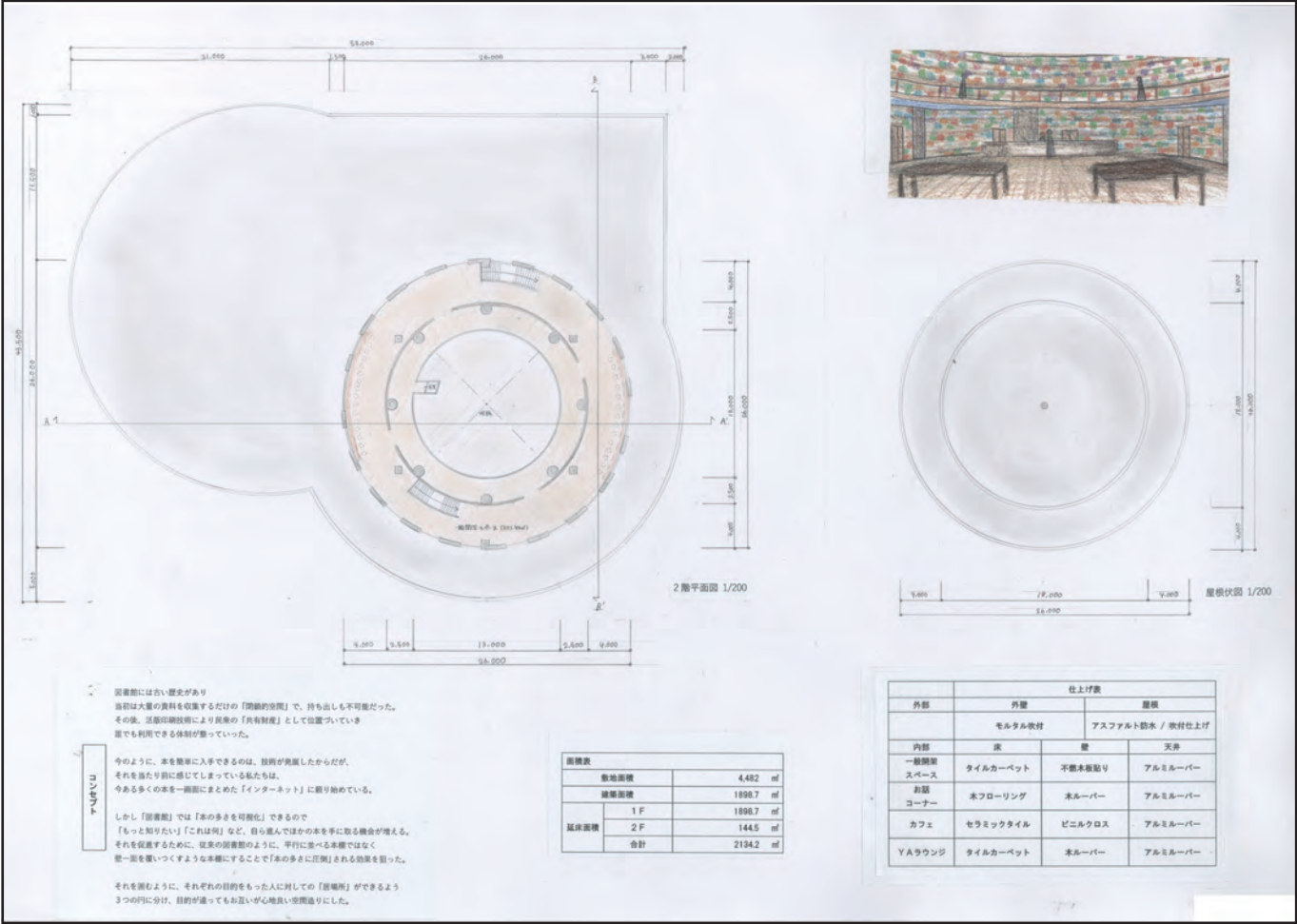
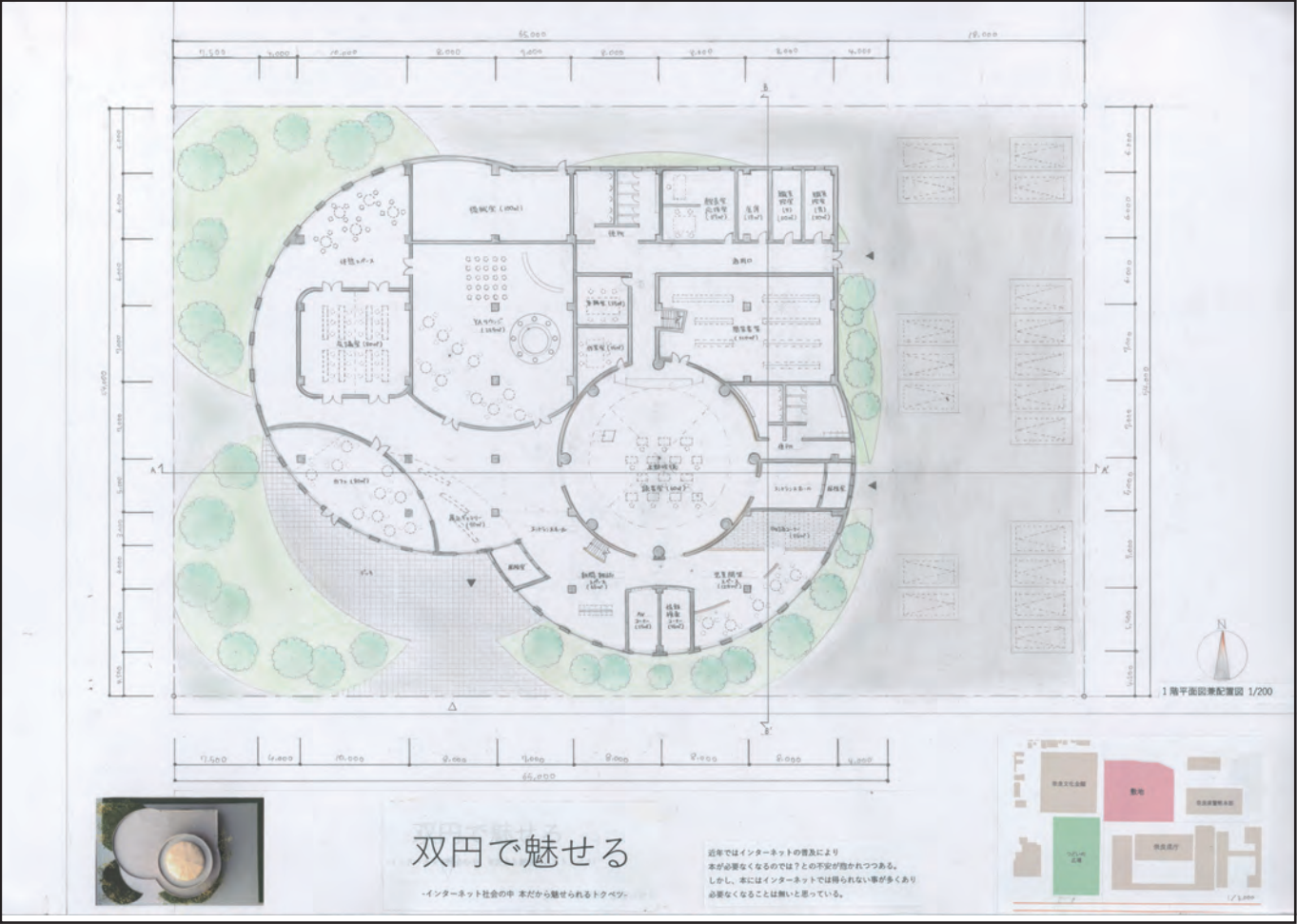
児童館家入バス棟

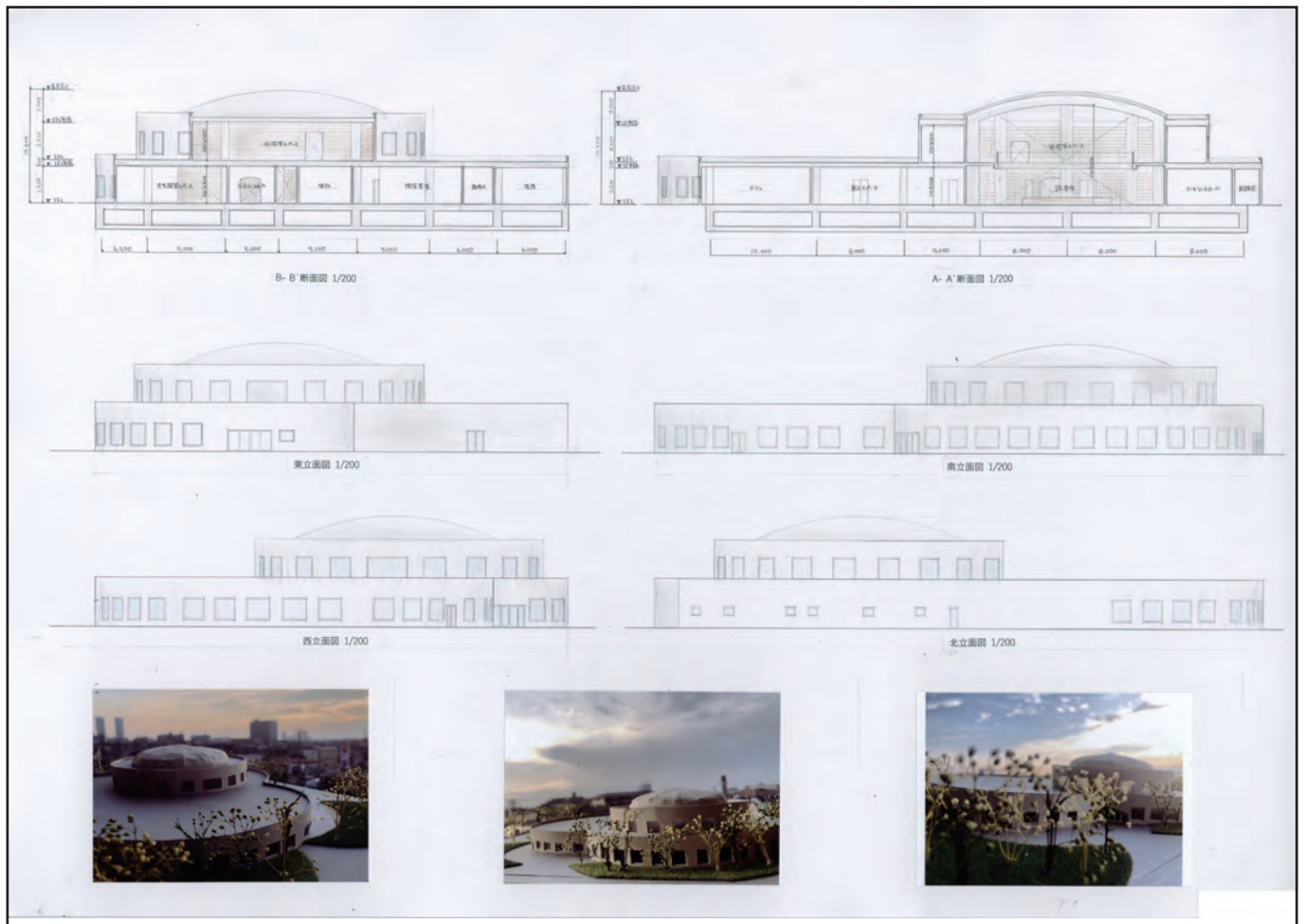


正門



第2課題 和田ひかりさんの作品





Architectural site plan and elevation drawings of the 'お揃い' (Osoi) building. The plan shows a large rectangular building with various rooms labeled in Japanese, including a gymnasium (体育館), lecture hall (講堂), and multiple classrooms (教室). It also features a central courtyard with a circular water feature and greenery. The drawing includes dimensions, a north arrow, and a scale bar. To the right, there are four small 3D perspective renderings of the building from different angles, each with a caption in Japanese.



